

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

第 16 号
平成 17 年 6 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



宮崎大学医学部整形外科学講座 帖佐悦男教授就任祝賀会 平成16年7月3日 於：宮崎観光ホテル



宮崎大学医学部整形外科学講座 帖佐悦男教授就任祝賀会 平成16年7月3日 於：宮崎観光ホテル



宮崎大学医学部整形外科学教室開講30周年記念会 平成16年11月20日 於：ホテルプラザ宮崎

ご 挨拶



「開講30周年に寄せて—昔話」

河 野 雅 行

この度、開講30周年と帖佐教授の御就任という慶事も重なったので何か寄稿せよとの御指示です。それ程の歳でも無いし特別自慢できるエピソードも無いので困りましたが、教室誕生の頃に在局した者の義務として少しばかり昔話を思い出しながら駄文を記しました。

刻は流れて行きます。それも瞬時に。しかし過ぎ去った年月は早いとは申しまして30年程前の事象を思い出すのは日記や記録を殆ど残さない主義の私には大変困難な事です。記憶力減退症状の強い昨今は苦手な作業であり、記憶の誤りや事有る度に繰り返し述べてきたので陣腐な話になりますが、御容赦ください。

30年前に設備も殆ど無く数名のスタッフから始まった教室も、今や百数十名の大所帯となりました。その間教授も木村教授から田島教授に受け継がれ現・帖佐教授で第3代目です。木村先生が教授に昇任後、田島先生が助教授に赴任されました。我々よりも少し年配の颯爽とした先生でした。残念ながら当時私は国立宮崎病院へ出向中でしたので、同時在局期間はありませんが、ビフォー・ワークの早朝野球やアフター・ワークの若手医師との「きはら会」に何回か参加させていただきました。当時から大変活動的で若手の人望を集めておられたのが印象的でした。田島先生が木村教授の御退官を受けて教授に就任された際の助教授として伊勢講師に要請されました。伊勢助教授が熊本市市民病院部長（現・N T T熊本病院長）に赴任された後に桑原講師が助教授に昇任されました。桑原助教授が川崎市立病院部長として去られた後に田島教授が自分の後継者として助教授に指名されたのが帖佐先生です。その後の経緯は皆様方が熟知されていますので省略いたします。此の様に、教室では歴代の助教授がそのまま教授に就任される、伝統を築き護るには望ましい形での継承が為されています。反面、血が濃すぎて起こる弊害も有りますので、深意識の片隅では自省されつつ益々発展されて行くものと期待しております。

大凡30年程前、県立宮崎病院裏の建物に間借りをしていた仮教室の雑然と積み上げられた書物や物品の山の中では、木村助教授、伊勢・矢野（希）助手と米倉研究補助員が引っ越しや開設準備に追われておりました。その様な環境下でも研究を継続されていた先生方の御苦勞は大変であろうと推察しました。私は入局の挨拶を済ませると直ぐにその場で、新病院が出来る迄県立延岡病院と江南病院（現・社会保険病院）への出張を命じられ、翌日より赴任したので引っ越しの苦勞は味わわずに済みました。

から研究室での抄読会に車を走らせ、2カ月に一度行われていた宮崎市郡整形外科医会のCCにも参加していました。そのように忙しい間にも週末には北浦海岸でスキューバ・ダイビングを楽しんだりと公私共に充実しておりました。

11月に新病院が開院。開院当時の教室員は木村・伊勢・矢野先生方に加えて我々3人が出張から帰り、更に大野・野津原・栄先生方が新しく戦力として参加され木村・伊勢先生を中心に活動しました。それでもスタッフが足りずに毎週1～2回の当直は当然で外来・病棟・教育・研究・外勤まで一人何役も要求されました。尤も当時は関連病院は殆ど無く、山田整形外科（現・あかえ）の代診や日南・山本病院での巨大犬と同宿の同直等数カ所が主たるバイトでした。

当時は新設大学の意気込みで考えも新たに古い医局制度の解体が叫ばれ一つの試みとして医局長職は廃止との教授会の意向でした。後に組織が大きくなるとやっぱり不便だとの声で復活して現在に至ったと聞いております。其の様に新しい大学病院を創ろうと全員が理想と意欲を持って取り組んでいました。しかし、スタッフ・機材・予算全てが不足しており、毎年の予算で少しずつ充足させるという状態でした。机と椅子と私物の他は殆ど何も無くて広だけの研究室が各科に割り当てられスペースだけは各人個室でも取れそうな程で、院内全ての部署には空部屋ばかりが目立ちました。一方、研究体制は未整備で新設大学の為に臨床例も殆ど無く研究費もテーマも時間も制限されて焦りを感じていました。それでも全員で知恵を絞って何とかテーマを見付けて科研費を申請し、症例を掻き集めて学会発表に参加していました。

病棟は一部分は未完成でスタッフ不足も伴い全床オープンとなったのは随分経ってからです。当初オープンしたベッドは直ぐに満床となりましたが、エアーシューターは頻繁に故障するし、事務や薬局・他科との連絡等システム自体が完成しておらず円滑に運営出来ない状態でしたので少しの作業でも大変手間が懸かりやり直させられる場合も多くなりました。

開院に当たって医師と看護婦（師）の話し合いがあり、当時問題になりつつあった医療行為の内、医師の役割と看護婦（師）の役割分担も話題となりました。現在では考えられない事ですが、当時は未だ医師不足で大学病院でも医療行為の一部分を看護婦（師）に任せて黙認されていた時代だったのです。整形外科病棟は満床で外来患者も多く医師は手一杯でしたので、看護部の協力無しにはとても廻らない状況でした。結局、静脈注射・ブロック・関節注射は医師が施行、その他の筋肉注射・皮下注射・採血・導尿等は看護婦（師）が施行することになりました。整形外科以外の科ではそれらは全部医師の作業となったそうです。此の様に開院当初は医師・看護部・パラメディカル全ての部門でスタッフが少なくお互いに顔が見える関係で皆仲が良く、他の科や部門のスタッフも同様に殆どが顔見知りの仲でした。歓迎会・忘年会等様々な行事を行うにも歯科の先生方、看護婦（師）さん方と合同開催が多かったようです。

その頃、木村先生が平和台の麓に家を新築された際に、岡田・武内・河野の3人で何か記念樹を送ろうと相談が纏まりました。如何なる土地でも間違いなく根付く丈夫な物とを考え、川南町の農家まで行って購入した「亀甲竹」を3株新築庭の片隅に植えさせていただきました。後でそれを聞かれた伊勢先生曰く「君達は何て事をしたのだ。医者之家に竹を植えるなんて“藪”になるじゃないか」

今後の帖佐教授の御活躍と教室・同門会の益々の御発展を祈念いたします。（思い出すままに記載しましたが、予想通り全くの駄文になりました。御容赦下さい）

平成17年3月8日

巻 頭 言



教授就任および開講 30周年にあたって

帖 佐 悦 男

平成16年5月16日付で発令を頂き、前任の田島直也教授の後任として宮崎大学医学部整形外科講座を担当させて頂くことになり、早いもので1年が経過しようとしています。この1年間は、宮崎大学との統合後でもあり、また、独立法人化されるなど大学の機構自体も大きく変化し新たな卒後臨床研修制度が開始されるなどすべてが新しいことに加え慣れないことも多く、慌しい1年間でありました。また、台風や地震など自然災害の多い年でもありました。教室にとりましては、開講30周年という歴史の節目を迎えることができましたので皆様方と振り返りたいと思います。

宮崎医科大学は昭和49年に新設医科大学として開学し、同年木村先生が熊本より赴任され、昭和52年には、附属病院が開院しています。その当時は皆様方ご存知であります同門会名誉会員の玉井先生が学長をされておられました。研究棟・病院の建設された時期でもあり、創設期でいろいろな面でご苦労が多かった事と拝察致します。昭和54年に田島先生が長崎より赴任され木村教室の体制が確立しました。初代教授木村先生のライフワークであります関節リウマチ、そして二代教授田島先生のライフワークであります脊椎外科やスポーツ医学などを中心に宮崎県の地域医療の充実を推進され、また、研究・教育に関しましても着実に業績を挙げてこられました。学会に関しましては、日本リウマチ関節外科学会、日米整形外科スポーツ医学会や日本脊椎脊髄病学会など新設医大ではありましたが数多くの全国学会を開催されています。

また、両先生を初めとしまして教室員の努力の甲斐があり現在教室員94名、同門会員179名になり本学で最も大きな講座のひとつとなっております。30年間、教室を支えて頂きました教室員、同門の先生方、大学関係者、関連病院関係者に深甚の謝意を表します。

私個人と致しましては、昭和59年に卒業後、初代教授木村千仞先生の宮崎医科大学整形外科に入局し、主にリウマチや脊椎を中心に学びました。出張病院では、その当時病院数が少なく、整形外科医も少なかったので、様々な外傷や多くの症例を経験させて頂きましたことが、整形外科をトータルな面から考えることができ、そのことが現在の臨床・教育・研究に非常に役立っております。

二代教授田島直也先生のもとで、学生教育では、コアカリキュラム、診断学実習、OSCEなどを担当致しました。臨床は、下肢関節やスポーツを中心に行いました。また、留学させて頂いたベルン大学（GANZ教授）では、股関節を中心とした関節外科、外傷の臨床および研究を行い、これは現在も継続しています。研究に関しては、臨床で疑問に感じたことを研究させていただき、また、臨床ヘフィードバックさせて

頂くという臨床を实践する外科医にとって非常にありがたい環境を与えて頂き、股関節疾患の臨床と基礎研究、スポーツ医学やバイオメカニクスによる病態の解明を中心に行ってきました。最近では、共同研究として整形外科領域でのアドレノメデュリン、関節リウマチや遺伝子解析を行っています。

今後は、先輩方が築かれた教室の流れを踏襲し、特に関節機能再建、バイオメカニクスの手法や遺伝子解析などを用いた病態の研究、生体活性ペプチドの研究などを行い、教室の柱のひとつであるスポーツメディカルランド宮崎を推進し、臨床では関連施設や地域の第一線で活躍されている先生方との連携を密にとりながら特定機能病院でしかできない最先端の治療を開発・実施し、宮崎から世界へ発信できるよう頑張る所存です。玉井元学長が、本学の下地を築かれ、木村初代教授が、整形外科の芽を宮崎の地に植えられ、田島二代教授が、その芽をここまで育ててこられましたので、私の役目と致しまして、その芽を枯らすことなく、教室員一丸となりまして、開花させることであると思っております。

教室員の和を大切にし、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科講座として貢献したいと思っております。

そのためにも、私たち教室員のみですばらしい花を咲かせることは困難ですので、皆様方の御指導・御鞭撻を、これまで以上によりしくお願い申し上げます。



目 次

こ 挨拶

「開講30周年に寄せて——昔話」……………河 野 雅 行

巻 頭 言

教授就任および開講30周年にあたって……………帖 佐 悦 男

開講 30 周年、帖佐教授就任にあたって

“おめでとう御座います”……………玉 井 達 二…… 1
 開講30周年を省みて……………木 村 千 仞…… 2
 帖佐悦男教授の誕生を祝す……………田 島 直 也…… 4
 宮崎大学(旧宮崎医科大学)整形外科学教室開講30周年によせて…田 島 直 也…… 5
 アキレス腱断裂の4症例……………武 内 晴 明…… 7
 開講30周年によせて……………岡 田 光 司……10
 宮崎大学整形外科に感謝……………渡 辺 雄……11
 「人生五十年」……………平 川 俊 一……12
 帖佐教授ご就任にあたって……………福 田 健 二……14
 帖佐教授就任にあたって:20年前を思い出して……………川 越 正 一……15
 帖佐悦男教授御就任にあたって……………柏 木 輝 行……17
 歴代教授の先生方との思い出……………黒 木 龍 二……18
 帖佐悦男先生の教授就任にあたって……………園 田 典 生……20
 帖佐悦男先生の教授御就任にあたって……………渡 邊 信 二……21

医 局 長 挨拶

医局長就任挨拶……………関 本 朝 久……23

大 学 近 況 報 告

帖佐教授就任のお祝いおよび現況報告……………鳥取部 光 司……24
 「はじめての日整会、はじめてのスイス」……………黒 木 浩 史……25
 帖佐教授就任のお祝いと上肢班近況報告……………矢 野 浩 明……26
 下肢班の現況……………坂 本 武 郎……27
 帖佐教授就任のお祝いおよび現状報告……………濱 田 浩 朗……28
 スポーツグループの近況報告……………河 原 勝 博……29

関 連 病 院 近 況 報 告

帖佐教授就任のお祝いおよび現況報告……………松 岡 知 己……30
 宮崎社会保険病院の近況……………本 部 浩 一……31
 近 況 報 告……………飯 干 明……32
 国立病院機構都城病院より近況のご報告……………内 田 秀 穂……33
 帖佐教授就任のお祝い及び現況報告……………神 菌 豊……34
 帖佐教授就任のお祝いと公立多良木病院の近況報告……………浪 平 辰 州……35
 近 況 報 告……………安 藤 徹……36

こども療育センターの現状報告	柳園	賜一郎	37
済生会日向病院	石田	康行	38
帖佐教授就任のお祝い、および現況報告	塩月	康弘	39
（助弘潤会 野崎東病院整形外科の近況報告）	樋口	潤一	40
我40にして惑わ	樋口	潤一	42
帖佐先生教授御就任おめでとうございます	深野木	快士	44
串間市立病院近況報告	川添	浩史	45
帖佐教授就任のお祝いおよび現況報告	野辺	達郎	46
近況報告（飴肥杉とカツオのタタキ）	益山	松三	47
病院紹介 社団牧会 小牧病院	田辺	龍樹	48
帖佐先生、教授御就任おめでとうございます			
～藤元早鈴病院の近況報告を兼ねて～	村上	恵美	49
帖佐教授就任のお祝いおよび現況報告	田島	卓也	50
同門会・医局行事			
やっばりスポーツっていいもんだね！			
（第7回同門会テニス大会報告記）	尾田	朋樹	51
平成16年度同門会ゴルフコンペ報告	平川	俊一	52
平成16年度日整会全国野球大会を終えて	関本	朝久	53
平成16年度西日本野球大会を終えて	関本	朝久	55
第47回西日本整形外科親善野球大会の二軍優勝への道	公文	崇詞	58
日本整形外科学術集会サッカー大会南九州ブロック予選会	山本	恵太郎	60
厚生課（第2期厚生係）報告—医局旅行+α—	山本	恵太郎	62
新入会員紹介（賛助会員）	高見	博昭	65
	大崎	泰	66
	河合	淳	67
	小櫻	博幸	68
新入会員自己紹介（正会員）	弓削	孝雄	69
教室同門の研究業績			71
編集後記			88



“おめでとう御座います”

玉井 達二

この度、貴教室におかれては、開講30周年を迎えられ、又三代目の教授として帖佐悦男先生がご就任になり、本当にお目出度うございました。心からお慶びを申し上げます。

顧みますと、無医大県解消と言うことで、私もご縁があって、宮崎医科大学創立に参画させて頂きました。そして貴教室の誕生にも参加致しましたので、貴教室がここに開講30周年をお迎えになり、又帖佐教授がご誕生になりました事は、私にとって大きな喜びであり、素晴らしい感動で御座います。本当におめでとうございます。

思えば、何もない清武の建設予定地に立って、勝木司馬之助先生はじめ教授予定者の方々と共に、“どのような大学を創ろうか”と、考えた時のことが、次から次へと脳裏に浮かびます。そしてあれから、もう30年の月日が流れたかと思いますと、在り来たりの言葉ではありますが、本当に月日の経つ速さに改めて驚かされ、感慨無量です。

貴教室が初代木村千仞教授によってスタートし、教室・同門の方々のご努力・英知によって点火された立派な松明は、二代目教授田島直也先生に手渡され、田島教授の手によって、その炎の光は新しい分野をも照らしながら、大きく・大きく広がって参りました。

そして貴教室の教育・研究・医療の体制は、月日の歩みと共に着々と整い、充実して、立派な業績を挙げて来られたことは、皆様のよくご

存じの通りでございます。

そしてこの度、その松明は新しいリーダー帖佐教授の手にしっかりと託され、輝きを増しながら燃え続けております。

このように、30年間に教授をはじめ、教室・同門の方々のご努力によって、車の両輪である素晴らしい教室と同門会が、磐石の基礎の上に築き上げられました。同じ整形外科の道を歩いて来た私は、帖佐教授を中心とした貴教室・同門から次々と、立派な人材が育ち、関係分野に於いて、素晴らしい活躍を展開されます事を、心から楽しみに致しております。

継続は力なりと申します。私は帖佐先生が昭和59年から今日まで、20年と言う長い間、教室・同門の方々と共に身につけられた伝統を生かしつつ、更に新しい道を切り拓き、将来に向かって大きく飛躍される事と確信しております。

どうぞ、教室・同門の皆さん方には、益々健康にご留意になり、ご活躍下さいますよう心からお祈り致します。

おめでとう御座います。



開講 30 周年を省みて

木村 千 仞

1. 整形外科講座開設

昭和47年6月に日本の首相として田中角栄氏が指名されたことを私は当時の留学先OxfordのNuffield Orthopaedic Center(Prof Duthie)で当地の新聞で知った。そして、帰国後TVや新聞でしきりに列島改造論を強調し、その一端として医療過疎地域対策として一県一医大政策が施行された。九州では宮崎・佐賀・大分がその対象となり、宮崎は単科医大を撰び玉井教授は副学長(病院長兼整形外科教授)と決定、助教授として熊大から某君が行くらしいとの噂で一件落着と信じていた。ところが、開学の3~4ヶ月前になって教授から急に宮崎行きの話が出てびっくり、「ちょっと考えさせて下さい。」と申し上げ、家族は勿論、親しい人達とも相談した。当時、人工Patella作製のため解剖教室通い中であり、留学後の宿題作製に忙殺されていた為、何も設備がない処への転任は考えてもいなかったからである。結局、私は大学側の事情で昭和49年4月からの宮崎行きを決心した。

当初は病院も医学部(研究室・事務部)も建物はなく、清武の職員宿舎と県病院内の仮研究室(6室)が職員の居場所で、会議は県営運動場の仮校舎に事務局を置き、仕事が行われた。私は更に週1日熊大で学生のベットのサイドを受持っていたので、土・日が熊本の自宅泊り、月~金が清武単身赴任であった。当時はループ橋も高速道もない加久藤峠を自家用で往復したも

のである。球磨川べりを運転したら、川下りの荒々しい瀬と静かなる淵を思い出し、人の世の流れを考えながら往来したものである。丁度この時期が私の一つの瀬の時代であった。

整形外科の教授選は、学長・副学長2名で開学前に決めた人達が3年後に出揃ったところで行うとの学長声明で、整形外科はそれまで教授欠員とのことでその後2年位は静かな淵の時代であり、その間講座費は他教室の半分で設備が進まねば教官は年間1~2名の増員で業績はあげろで、難儀の淵が3年続いた。

昭和51年11月、研究室と病院の半分が新築成って、江南病院・県立延岡病院へ研修出張していた医局員も大学へ戻り、大学診療の形造りが始まったわけである。

2. 主任教授決定まで

学長の考えでは、昭和52年春に基礎、臨床の既定の教授が揃ってから整形外科講座教授の選考に入るとの方針で、選考準備にかかった様である。選考規定では、①賛成2/3以上、②内・外における他者の論文に候補者論文が何編引用されているかを提出すること。などがあったが、結局①は選考過程の中で無理とされ、過半数有効に訂正された。この間の経過は球磨川下りで言えば「槍倒しの瀬」という船頭泣かせの場面であった。そしてクリアされたのが昭和54年1月である。教室員一同に大変心配かけた次第である。

3. 第三の瀬

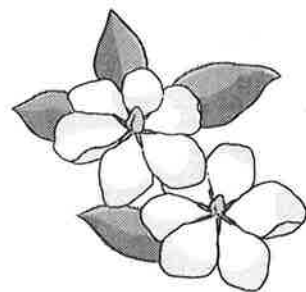
教授選でホッとしたところへ第三の瀬が迫っていた。それは大学院を設置せねばならぬから適切な助教授をすぐ推挙せよとの学長の弁。玉井副学長をはじめ、九州・中国・中京など幾つかの大学を訪ね推薦を依頼して回った。

簡単には話が進まなかったが、幸い長崎の鈴木教授、三原先生らの御説得で田島直也先生の助教授就任で、大学院設置が得られた。(昭和54年11月)

これで漸く要(かなめ)が決まり、教室としてまた大学院としての実質的な講座が出来たわけで第三の瀬を渡ったわけである。川の流れも緩やかに仕事も行事も順風満帆に進行を始めた。

こうした中に昭和59年6月に帖佐先生達5名入局。以後、諸先生の努力と協和で現在に至ったことはまことにすばらしい発展であると喜ばしい限りである。帖佐教授の御尽力と教室の発展を願ってやまない。

30年前、熊本―宮崎間を毎週、球磨川沿いに車で走り、夜の加久藤峠の凸凹道を恐る恐る駆動させて往復したら、自分の立場が川の瀬や淵を渡っている様に思えてならなかった。「世の中は、なにか常なるあすか川、明日の淵ぞ今日は瀬になる」(古今集)を思い起す。人生の妙諦は緊張と弛緩の上手な使い分けにあるともいわれるが、生きるということは呼吸と同じく緊張と弛緩の交錯なのか。





帖佐悦男教授の誕生を祝す

田 島 直 也

平成16年5月16日に宮崎大学医学部（旧宮崎医科大学）整形外科講座第三代教授に帖佐悦男教授が就任されました。誠にめでたく心からお喜びを申し上げます。

帖佐悦男教授は昭和59年（1984年）大分医科大学を卒業後、直ちに当時の宮崎医大木村千仞授の整形外科教室に入局れ、1996年は“Evaluation of acetabular coverage of the femoral head with anteroposterior and false profile radiographs of hip joint”の論文で学位を取得されました。この論文は第12回日整会基礎学術集会で優秀賞を受賞されています。海外留学はスイスのベルン大学にて3回されています。また、1995年から2年間は医局長として教室内の他、各種学会や研究会に至るまでその業務を果たしてもらいました。1997年2月医学部附属病院講師、1998年5月には医学部助教授となり、平成16年（2004年）5月から宮崎大学医学部整形外科主任教授に就任されました。

臨床面では整形外科領域における関節外科を専門とし、特に股関節を中心に積極的に診療を行い、患者さんからの信頼の厚い医師です。また、スポーツ医学や腰痛症にも造詣が深く、熱心に取り組んでもらっています。

研究面では、有限要素法を用いた三次元的解析として、バイオメカニクス学的に各関節の解析を、一方では、ペプチドを用いた研究として、関節リウマチにおけるアドレノメデュリンの関与及び関節軟骨における役割について研究を手がけています。

教育面では講師昇進時より4年生の系統講義を担当してもらい、本学学生課が実施した講義

アンケートでも、学生に対してとても分かりやすい講義であると実証されています。ポリクリにおいてはその臨床実習の的確な指導と人間性から技術面だけでなく医師としての心構えといったものを指導できる少ない医師の1人です。

人格は誠実にして温和であり、上司に対しては常に礼儀正しく、同僚、後輩からは信望も厚く、他者との協調性に富み、学内外においてものその有言実行の真摯な態度から高く評価をされています。

平成2年6月3日御結婚され、この時私共は仲人をさせて頂きましたが、私は挨拶の中で「新郎の悦男君とは約6年間同じ医局生活を送っていますが医局では何事にも積極的に取り組み、非常に細かい気配りがあり、先輩後輩からも厚い信頼を得ています。整形外科志望の動機として（最もやりがいがあり、結果が明白である、しかし辛いこともある）と言ってくれましたが、家族の方同様患者さんへの思いやりも強く、信頼関係があることは臨床外科医として最適任で将来の宮崎医大を背負ってくれるものと思います。」と述べています。ここに期待通り名実共に宮崎大学整形外科を主宰していくわけですが、どうか初心を忘れず切磋琢磨して整形外科教室を発展して行ってほしいと思います。

教授たるものは時に孤独で辛いこともあると思いますが、どうか健康にきをつけて頑張ってください。私も帖佐教授にバトンタッチができれば本当によかったと、心から喜んでいきます。

今後の帖佐教授を中心とした宮崎大学医学部整形外科教室の発展を心から期待しています。

宮崎大学(旧宮崎医科大学)整形外科学教室 開講 30 周年によせて

田 島 直 也

宮崎医科大学は昭和48年に大学準備室ができ、49年6月7日に開学しました。整形外科学教室の方は、熊本大学整形外科教室より木村千仞講師が整形外科主任助教授として赴任され、ここに宮崎医科大学整形外科学講座が誕生致しました。当初は、県立宮崎病院内の木造空き家の病棟で机1個椅子1脚からのスタートであったと伺っております。

その後、昭和52年に附属病院が開院、昭和54年1月に木村先生が教授に就任されました。私は、昭和54年11月に長崎から助教授として着任し、その後、平成2年4月から平成15年3月まで主任教授として、平成16年5月からは帖佐悦男教授が主宰されています。開講30周年は、教室の大きな流れからは一通過点であります、ひとつの区切りとして位置づけられるかと思えます。

開講当初の5年間のことは、私はいろいろな人にお話を聞いただけですが、研究棟・病棟の建設された時期であり、まさに創設期で色々な面でご苦労が多かった事が十分想像できます。ここでご苦労された先生方に深く感謝致したいと思います。

次の5年間のいわゆる教室の基礎作りには、私も木村教授の下で参加させて頂きました。スタッフの充足と新病棟での診療・学生実習・研究着手の時期でありました。

私が赴任した当時の教室は、木村教授の他、私と助手4名であり、教育・診療におわれ、多

忙な毎日でした。宮崎リハビリテーション研究会は、昭和50年11月8日に発足されていましたが、宮崎整形懇話会が昭和55年12月20日、宮崎県スポーツ医学研究会が昭和62年12月12日、宮崎県リウマチ研究会が平成元年10月21日に発足しています。

また、同門会誌創刊号は昭和63年1月20日に発刊しています。開講10周年には、九州大学天児民和教授に祝辞をいただきました。一方、木村教授の“関節リウマチ”の研究も、武内・税所君らを中心に進み、第14回日本リウマチ・関節外科学会を昭和61年10月23日、木村会長の下に宮崎で開催されました。

平成2年4月、教室主任を木村教授から引き継ぎましたが、基本方針として、

1. 研究面は、バイオメカニクス中心(生体工学・動作学)に行い、病理学・生化学は基礎教室と共同研究を行う
2. 診療グループは、脊椎と関節外科で行う事としました。

宮崎出身の他大学卒業生のほか、待望の宮崎医大卒業生も入局し、少しずつ教室員も増えました。担当した主要学会は、

国外：第2回日米整形外科スポーツ医学会、

ハワイ (H 5.3.20~25)

第8回日台整形外科シンポジウム、宮崎

(H 5.4.24~26)

国内：第19回日本整形外科スポーツ医学会

(H 5.7.22~23)

- 第30回日本側疝弯学会
(H8.11.22~23)
第6回日本腰痛学会 (H10.11.21)
第25回日本臨床バイオメカニクス学会
(H10.11.19~20)
第11回日本臨床スポーツ医学会
(H12.10.28~29)
第31回日本脊椎脊髄病学会
(H14.6.6~7)

があり、平成12年には、GOTS Fellowを宮崎に迎えました。また、Nachemson, Mcnab教授ら著名な先生方も宮崎まできて頂きました。

新設医大の創設目的としては、まず地域医療への貢献が上げられ、この目的達成のため、関連病院の充実が必要です。

30年間で入局者は141名、賛助会員は40名、関連病院は30病院になりました。また、入局者で学位取得者は24名です。振り返ってみると、私も精一杯頑張ったつもりですが、研究面を含め、反省点も多く忸怩たるものがあります。

医局員の和・親睦を目的に始めた“野球”も、当初は連敗連敗でしたが、西日本では優勝3回・準優勝6回の強豪になりましたが、あとは全国制覇が残っています。

今後、臨床面では、現在の世界水準への到達を目標にする事はもちろんですが、まず教室の皆様には医師として名医より良医になってほしいと考えています。一方、研究面では、今後、帖佐教授を中心に宮崎から世界に発進できるものを目指して頑張りたいと思います。

10年後、20年後に教室の歴史を振り返った時、どんな実績が残せたか、どんな教室であったかは自ずと評価される事になります。

リンカーンの言葉に『自分の成し得る事でベストを尽くせ』とあり、また、ケネディ大統領は、『国が私に何をしてくれるかではなく、私が国になにが出来るか、これが今、求められている』と述べております。

今後の宮崎大学医学部整形外科教室の発展を心から祈念し、教室開講30周年によせる言葉とします。





アキレス腱断裂の4症例

武内 晴明

我々は宮崎大学医学部整形外科（前宮崎医科大学整形外科）において、過去30年間に4例のアキレス腱断裂を経験したので報告する。

症例1 河野〇行 〇〇歳 男性
整形外科開業医

昭和〇〇年〇月 バレーボール中突然右アキレス腱部を打撃された感じがあり、その後右足関節の底屈困難となる。自分でアキレス腱断裂と診断するも放置。翌日、私が患者の所有する診療所に向き手術施行。手術は腹臥位、局麻。手術中に、「外来に患者さんが受診されました」とNr.から連絡あるも患者（院長）は「院長は今手術中と伝えておけ」と腹臥位のまま答えられた。術後、尖足位で大腿から足部までギプス固定。ギプス固定後患者（院長）は車イスにて外来診察室に移動し、普通のイスに移り、診察室の机の下に患肢が十分隠れるように座り、「どうされましたか？」と診察をはじめられた。

私は河野先生はなんと素晴らしい、熱意のある先生かと感嘆した。翌日患者（河野先生）の奥様より電話があり、主人がギプスカッターで勝手にギプスを切り、西橘通りに酒を飲みにい

ったので、もう一度ギプスを巻きなおして叱って下さいと依頼があったので、再び河野整形外科に出向き、ギプスを巻きなおした。そして、今後絶対に自分でギプスをカットしないように厳重に注意し、Nr.に雅行先生の近くにギプスカッターを置かないように注意して帰った。術後経過はほぼ良好と私は考えているが、本人は手術側下腿の萎縮があり手術手技が悪かったと思っているフシがあるが、私は、術直後にギプスをカットし西橘通りに飲みに行った患者に責任があると思っている。ちなみに、どうして術直後に西橘に行ったか聞いたところ、アキレス腱断裂のためしばらく飲みに行けないので行きつけの店に挨拶回りに行ったとの事。医師としては立派だが患者としてはダメ、残念！。

症例2 岡田〇司 〇〇歳 男性
整形外科開業医

昭和〇〇年〇月 バレーボール中左アキレス腱断裂。翌日大学整形外科に入院し手術。腹臥位、局麻。術者は恐れ多くも玉井達二先生。玉井先生は「君たちに神中の横皮切を教えてあげる」といってメスを取られた。ここで横皮切について説明しておくが、皮切のレベルを間違うと展

特別企画（はみ出しコラム）

同門会の夕ネ

presented by “Kタロー”

開講30周年記念+帖佐教授就任記念号にあたり、初の企画として宮崎大学医学部整形外科同門会の統計的小話を“同門会の夕ネ”と題してお届けします。“へえ～ボタン”を用意してご堪能ください。決して“暇ねえ～ボタン”は押さないように。

開が困難となり追加の縦皮切を必要とすることあり。術中、腱を引っ張るためか、岡田先生はウーン、ウーンとうなっておられたが、術者が玉井教授のため痛いと呼ぶわけにもいかない。そのうちプレショック状態で気分が悪くなったのかOPE室のNrに血圧を測定させ、腹臥位のまま自分で点滴チューブのクレンメを最大に開放して血圧のコントロールをされていた。私はさすがに麻酔科出身の医者だなと感嘆した。その日の夜、私は当直だったので、岡田先生の病室にジュースを買っていったところ、「ジュースなんかいらん、川越酒店からビールを買って来い」と言われた。私は当直医であるにもかかわらず、車で川越酒店に行き350mlの缶ビール1本とスルメを買って岡田先生に渡した。岡田先生（当時病棟医長）がこれを病棟で飲まれたかどうかは確認してない。岡田先生は医師としては立派だが、患者としてはダメ、残念！。

今考えればおおらかな時代であった、当直医が患者のためとはいえビールを買いに病院外に出て行くなどということは許されることではない。大いに反省している。そういえば、渡辺雄先生（関節鏡の技術を医大整形に導入して頂き大変感謝しております、渡辺先生には足を向けては寝れません）は当直の時、夕方の入院患者の点滴時刻の前の時間帯に、2階東病棟の詰所に「ゴメン、今からちょっとゴルフの打ちっぱなしにいつてくるから、点滴の時間には必ず帰ってくるから、何かあったら武内君に頼んで」といって1時間ほどゴルフの練習に行っておられた。このような熱意が実ってか現在シングル（ハンデイ7）とのことである、我々もこの熱意を見習わなければならない。ちなみに、

私はハンデイ23である。渡辺先生ほどの熱意があれば私もシングルプレイヤーになるかも知れないが、そこまで熱心になれません、残念！。

症例3 吉井〇子 〇〇歳 女性

ブラジルの医科大学医学部リハ助教授

昭和〇〇年〇月 医大の体育館でバレーボール中右アキレス腱断裂。即入院。私が術者として手術を施行。リハビリはスムーズで（本人がリハのDr.）術後経過良好。数年後、故郷のサンパウロに帰られた。昭和63年頃リオデジャネイロの国際リウマチ学会で私が「リウマチ患者の疲労について」という演題で発表に行ったが、私がリオに行くと聞いて、わざわざバスで4時間かけて我々の宿泊するホテルまで会いにきて頂いた。しかも、翌日、我々の学会ツアーのメンバーを連れてリオの観光地を案内して頂いた。日本語とポルトガル語を話されるので通訳もして頂き非常に助かった（奈良県立医科大学の高倉義典教授も一緒であったが、非常に私に感謝され、日本に帰ってから礼状を頂いた）。お別れするとき、ホテルのロビーで下腿周径を計測させて頂いたが左右差はなく術後経過は良好であった。そういえば、お別れする前の日の夕暮れにホテルの前のコパカバーナとイパネマの海岸を二人で散歩した、吉井先生は健脚だったので下腿の筋力低下もないと判断した。それにしても、吉井先生は魅力的な女性でしかも独身であった、私は一瞬クラクラと迷いを生じたが妻帯者であった、残念！。

（対象）

（No.1～14）同門会誌の自己紹介よりピックアップした平成2年以降入会者を中心とした106名を対象。

（No.15～23）現同門会員140名を対象。

症例4 田島〇也 〇〇歳 男性

元宮崎医科大学整形外科教授、
スポーツ医学の権威

野球のベースランニング中アキレス腱断裂
(この症例は私が直接見てませんので左右は分かりません)。帖佐教授が執刀とのこと。手術の数日後、日本整形外科学会の〇〇委員会出席のため長下肢装具を装着し東京まで出張。平成16年11月下旬の同門会のゴルフコンペ時田島先生のスコアが良くなかったので、どうしてですかと聞いたところ、アキレス腱の手術後長距離歩行で患側の下腿痛があるとのこと、そのためにゴルフのスコアは悪かったとは直接は言われなかったが、どうも手術のせいにされていたフシがある。でも、アキレス腱の手術前もスコアがあまり良くなかったですから一、残念！。田島先生は教授として、また脊椎およびスポーツ医学に関しては非常に優秀でありましたが、患者としてはダメ、もう一度 残念！。

まとめ

1 過去30年間に当整形医局で経験したアキ

レス腱断裂の4症例につき報告した。

- 2 すべての症例で手術自体に問題はなかったが男性の3症例については術後管理に問題があった、1例は術直後、自分でギブスカットして西橘を夜間徘徊、1例は術直後の飲酒、1例は術直後長下肢装具をつけて出張。まともにリハを行えた女性の1症例のみが術後の機能に問題がなかった。
- 3 アキレス腱の術後成績は手術手技ではなく術後管理が重要である。

以上、当医局で経験したアキレス腱断裂につき報告しましたが、同門の先生方が宮崎大学医学部整形外科にとってアキレス腱とならないように注意し、皆様が努力して帖佐教授を支援し、益々教室が発展することを心より祈願いたします。

帖佐教授も、玉井教授(学長)、木村教授、田島教授という偉大な先生方の流れの中にあることを自覚し、同門の先生方が益々発展されるよう御配慮お願い致します。



Q1. 同門会入会数年別ランキング：最多・最少は何年だったでしょうか？

同門会誌第14号田島教授退官記念号の記事を覚えていれば正解がわかります。



開講 30 周年によせて

岡 田 光 司

30年前の1974年6月に宮崎医科大学（整形外科教室）が創設されました。そして3年後の1977年11月に附属病院が開院、整形外科診療も始まりましたが、その時の教室員は木村先生（助教授・教室主任）、伊勢先生（医局長）、矢野先生、河野先生、大野先生、そして私の6名、また看護師は13名の総勢19名、病床は現在の半分の20床でありました。まさにゼロからの始まりで医師、看護師による試行錯誤の苦労の日々が続いたわけですが、それだけに全員一丸でひたすら頑張ったこの創設期が懐かしく思い出されます。また、今に思えばバブル崩壊前のスロー？な時代でもあったようです。[ちなみに1988年11月に創設当時の2階東で3年間苦楽をともにした木村元教授、田島元教授をはじめ医師、看護師のOB主体の親睦の会「せいゆうかい（清遊会、整友会、…）」が発足し

ています。]

さて2004年5月16日に念願の同門会員である帖佐助教授の教授就任が実現できました。そして節目である開講30周年を迎えることができ、同門会員の1人として今回の円滑な人事結果に心から安堵した次第です。しかしながら1990年代からの社会の激変が現在も継続中です。医学・医療の分野においても例えば医師と患者の関係についても「信頼関係より契約関係へ」などと変わってきており、構造変革の中先行き予断が許されない状況となっています。開講30周年に当たり、新教授には現在会員172名を数えるまでになった整形外科教室・同門会の今後につきまして、より良い方向に舵取りをと衷心より願うばかりです。

2005年3月10日

A1.

	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
新卒	5	6	6	10	4	1	6	9	6	9	3	3	5	4	6
既卒	1	0	1	0	1	1	3	0	0	1	1	0	1	1	0

・最多はH4年ならびH10年の10名。ここは、全員新卒で占められたH4年入会がトップ。最少はH6年の2名（新卒1、既卒1）。



宮崎大学整形外科に感謝

渡 辺 雄

私が宮崎（医科）大学整形外科にお世話になったのはもう四半世紀前になります。今年、還暦を迎える今、当時のことを思い出すと思わず苦笑いしたくなるような“自信とうぬぼれ”に満ち溢れた血気盛んな頃でした。当時、助教授でした田島先生に「宮崎に来ないか」と声をかけて頂き山口一郎先生と一緒に着任しました。私が着任した時は医局の先輩として矢野希人先生、武内晴明先生、岡田光司先生、押川紘一郎先生、税所幸一郎先生がいらっしゃいました。よく考えるとそれだけのスタッフしかいなかったんですね。木村千仞教授を筆頭に総勢9人で臨床、研究、教育を一応やってたわけです。その後、私が在任中に佐藤信博先生、戸田勝先生、平川俊一先生、川野啓一郎先生、三浦広典先生、森山和幸先生が新たに入局されました。私はこれらの先生方に囲まれて思い出が凝縮した短い一年半を大学で過ごさせていただきました。教授、助教授を除いてたまたま私が一番年上だったため、名ばかりの医局長をさせて頂いてましたが大学のためには何も貢献できず大学を去ることになり、今でも申し訳なく思っています。でも私にとっては福岡での思いがけない開業を決めた、人生の大きな転機を迎える時期でもありました。25年経った今でも大学

にお世話になっている現況を見るにつけても、宮崎大学に在籍させて頂いた幸運とその後も私を温かく見守って頂いた同門の先生方にただただ感謝するだけです。

大学在任はたったの一年半でしたが私の今までの人生の中でも本当に思い出の凝縮された懐かしい時でした。大学病院の正門を出た所にある食堂“きわら”で仕事が終わった後に田島先生を交えてよく院外カンファランスをしてた事。野球のメンバーが足りなくて高鍋の山口政仁先生にも来て頂いてグラウンドを走り回ってた事。田島先生にお供して県内の関連病院を挨拶回りの事。などなど思い出すと切りがありませんが、その中で私の本性を良く表している在任中のエピソードを最後にご紹介します。

私の趣味はゴルフぐらいしかありませんが、医局の有志の先生達と青島カントリークラブでラウンド中のことでした。その時が勤務時間中だったかどうかは忘れましたが、一緒に回ってた戸田先生が私に向かって「先生、教授にばれませんか」と問いかけてきた時に私はすかさず、どこまでも青々と晴れ渡った遥か上空を飛んでいるジェット機を指差して「教授は学会であの飛行機の中さ」と答えました。

Q2. 誕生日（年度）ランキング：同門会入会までもに紆余曲折があります。
先輩後輩の中にも意外な関係が……。



「人生五十年」

平川 俊一

私事ではありますがこの同門会誌ができあがる頃には50才の大台に乗っております。昭和55年に宮崎医科大学整形外科学教室に入局し整形外科を一生の仕事と決めてからも今年の6月で満25年が過ぎ、人間としても整形外科医としても一つの節目を迎える年が今年になりました。人生の半分を骨関節に関わってしまいました。

私が入局したのは昭和55年6月のことです。宮医大も初めての卒業生を出した年でしたが、戸田先生と私の県外大学医学部からの新卒リターン組2人の入局でした。当時医局は木村教授、田島助教授、渡辺雄医局長をはじめ、私達2人を含めて10名のスタッフが全てでした。関連病院も無く、当時の江南病院（宮崎社会保険病院）や整形学園（県立こども療育センター）に手術の助手や当直に行っておりました。そのような事情で朝から夜中まで病棟・外来・手術室を走り回っておりました。週の半分以上はどこかの当直室におり、自宅には滅多に帰れませんでした。だいたい仕事が一段落付くのが9時でした。こんな状態ですから通常の診

療、入院患者さんとのコミュニケーションは勿論のこと、今で言う患者さんへの接遇、インフォームドコンセントなど、全くできてなかったと思います。当時の患者さんは私達が走り回って仕事をしているのを見ておられるためか、このような主治医の仕事ぶりにも理解を示して下さいました。現在ならとても許してもらえない事だと思います。

忙しさを理由にややもすると安きに流れようとする私達を医局全体での抄読会、田島先生が主催された輪読会などで、勉強をするように引張られました。下準備の時間を確保するために逆に前夜に当直の予定を入れたりして時間を作ったりしました。無我夢中で勉強しながら数年経つと繰り返し引用される事の多いオリジナルがあることに気づき、必要に迫られて訳す最新の文献と一緒に入手するようにしました。古い文献であることが多いので図書館に頼んで注文して取り寄せてもらったりもしましたが、これが結構勉強になりました。若い先生方には最新の文献の他にその中に出てくるオリジナルと一緒に目を通されることを勧めます。

A 2.

昭和	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
人数	5	2	9	3	10	3	9	3	8	6	6	11	3	2	4	2	3	1

- ・ S47年度生まれが11名でトップ。次いで、S40年度生まれが10名。しかし、現役ストレートはS47年4名・S40年3名のみと皆さん苦勞していますから。S47年度生まれは池尻・河野立・田島卓・益山・深野木快・市原久・村上弘・松岡篤・小蘭・小牧亘・上通先生の11名でした。

そうはいつでも開業してからは夜に文献を開くことは無くなりました。時に自宅まで医学雑誌を持っては帰るのですがビールとゴルフ週刊誌が邪魔をします。御前の最近のスコアからは、夜のゴルフの勉強はちっとも役に立っていないじゃないかという声が聞こえてきますが、理論武装の進み具合よりも、体の衰えの方が進行が早いのです。

話が横道に逸れましたが、若くて頭が軟らかい時に多くの文献を読むことです。先人の辿ってきた延長線上に、今の私達の医学はあります。1人で全ての経験をすることは出来ませんが、古い文献を読むことで学習できます。治療

法でも人生でもその時々でベストの選択はいつもは無理でも、ベターの決断を積み重ねていきます。右に逸れ、次は左に逸れても、最後は真っ直ぐに進んでいるのかも知れません。

今の世の中の情勢、医療を取り巻く情勢、全てが不確かな時代です。医療に持ち込まれた経済の論理だけでなく、全てが厳しい状況に思えます。一生懸命に治療をする、真面目に生きていく、これらのことでこれから先、通用するのでしょうか。何を拠り所にして、行けばよいのでしょうか。不惑はとうに過ぎたのに迷いが増えている今日この頃です。



Q3. 一番若い先生は？：平成15年入会組の現役ストレートは昭和53年度生まれです。さて、このオンリー1は誰でしょう？



帖佐教授ご就任にあたって

福 田 健 二

帖佐教授の就任を心よりお慶び申し上げます
帖佐教授は宮崎医科大学整形外科の入局で私の1年後輩にあたり、入局時より旧知の間柄であります。帖佐教授を一言で表現しますと、エネルギーで気配りの出来るすばらしい人物であるということです。

入局時よりとにかく良く働き、良く勉強する優秀な医師でありました。スポーツでもレクリエーションでも率先して動き、とにかくまめに行動する姿が印象的でした。早起きで、朝にも強く、先代の田島教授の声掛けで始まった早朝野球でも休むことなく、決まって1番か2番目には練習に姿を現していました。また、頭が下がるほど、他人に対する気配りがすばらしく、こちらが恐縮することがしばしばあります。入局してすぐに厚生係として医局旅行の企画を任された事がありますが、彼のリーダーシップ、計画の緻密さ、至れり尽くせりの内容には驚かされました。入局当時から一目置かれる存在であった事は確かです。また、人なつこくて、憎めない性格なので先輩からはかわいがられ、親分肌的なところもあって後輩の面倒見がいいので、若い医局員からも慕われる存在でした。タフで疲れ知らずという感じですが、頑張り過ぎて体を壊さないか心配でもあります。

帖佐教授はまだ若いですし、これからも教授

として腕を振るう時間は十分あります。教授には、目先の結果を追い求めるのではなく、じっくりと腰を落ち着けて10年先を見て仕事をしていただきたいと思います。

決して急ぐ必要はないと思います。種を蒔き、育て、成長したものを熟するのを待つてゆっくり収穫すればいいのです。就任した今こそ種を蒔いておく大事な時期だと思います。種は蒔かないと収穫はできません。新任教授というのは、まず名前を売らなければいけませんから、とにかく結果を急いで出そうとしますが、結果を急ぐ余り、付け焼き刃の仕事を促成栽培で出荷してはかえって評判を落とす事になりかねません。

じっくり、じっくりと自分の納得の行く仕事を育てていけばいいと思います。きっと、エネルギーな教授の下で独創的で基礎的な研究が次々に出てくると思います。今は無名の地方区でも、10年後、15年後に宮崎の地から全国、世界へと打って出ればいいのです。そして、宮崎に帖佐教授ありと言われるほどの大教授になって頂きたいと思います。帖佐教授にはその資質も時間もあります。

帖佐教授の今後のご健勝と宮崎大学医学部整形外科の発展を心よりお祈り申し上げ、私のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

A3. ・平成15年新卒6名のうち、現役ストレートは一人だけ。唯一の昭和53年生まれは小島岳史先生。制度改革のため2年間は後輩が入局しないので、最低あと1年一番下っ端として頑張れ！岳史!!



帖佐教授就任にあたって ：20年前を思い出して

川 越 正 一

大学病院で一緒に勤務した、元看護婦の菊池さんが、ミニバレーのしすぎで膝が痛くなり、来院されました。荒木さんは息子さんが柔道で腰が痛くなり、息子さんを連れて来られました。看護学校に講義に行くと、黒木さんが先生としておられます。「今度チョウサクリンが教授になったよ」と伝えます。彼女達は、帖佐先生の研修医当時のやんちゃな時代しか知らず、びっくりします。彼女らにとって、教授とは、木村先生であり、田島先生であるのかもしれませんが。同期生が教授就任したことは、自分の事ではないのに、何かしら、誇らしげな気分で皆に伝えます。

昭和59年6月、私たちは、宮崎医科大学整形外科に入局しました。メンバーは5人で、宮崎医大卒業の、私と田中正一先生、森田信二先生、佐賀医大卒業の黒木俊政先生、そして、このたび教授に就任された大分医大医大卒業の帖佐悦男先生でした。木村先生が宮崎に来られた昭和49年6月からちょうど10年目でした。

それぞれ、脊椎班、下肢班、上肢班に振り分けられ、整形外科クルズスを片手に研修医生活が始まりました。当時、研修医の私にとっては教授や助教授は非常に恐れ多い存在で、カンファレンスなどでは、木村先生や田島先生の前では、緊張感に押しつぶされておりました。長鶴先生・武内先生・川野先生・山口先生がそれ

ぞれのグループを仕切られておられ、研究会などでの発表デビュー戦など、有り難いご指導頂きました。医局には、当時若手の平川・戸田・三浦・出口・松本・中村先生が、そして一期上には、福田先生と三股先生がいらっしゃいました。先輩方の指導の元、朝の自主的輪読会（生理学的な話しであった記憶がありますが）から始まり、昼は陪席・オーダー出し、夜の点滴などの副直勤務と悪戦苦闘の日々でした。このように日中バタバタしていても、夜はもちろん、昼間も時間を見つけては、遊んでいました。みんな若く、元気でした（20年前ですからね）。野球もしましたが、怪我人続出で（眼科入院、足関節靭帯手術、膝にギブスなど）、当時は田島先生の期待に応えられませんでした。

年が明けて田中先生は、産業医大のリハビリ教室に研修に行かれました。残る4人も、関連病院へ研修にでることになったのですが、次年度の入局者が0であったため、同期同士での引継が多く、私も、麻酔科研修や高千穂国保病院は、帖佐先生の後を引き継ぎました。帖佐先生の後には、非常にやりにくかったのを覚えています。スタッフや患者さんも帖佐先生への思い入れが強く、なかなか私を受け入れてもらえませんでした。また、最初の1カ月は、引き継いだ患者さんの診察に、相当時間がかかりました。カルテが読めませんでした（勉強不足の私にと

Q4. 誕生日（月）ランキング：さてさて何月生まれが多いでしょう？

って、難解なカルテでした)。数年して、残りの3人が、それぞれ股関節・スポーツ整形・リウマチと専門性を高めて行かれたのに対し、私は、肢体不自由児施設の次は、外傷・救急施設勤務と何ら専門性を高めることなしに時が過ぎ去って行きました。学位研究のバイオメカも途中でストップしており、これらを心配していただいた、田島先生から大学病院勤務を許して頂いたのが、今から10年前の平成7年7月でした。最初、大学勤務になじめなかった私も、その後、医局長を命じられることとなりましたが、関連病院勤務が長かった私にとって、人

事・学会など、難しい仕事ばかりでした。大学での勤務や医局長業務に苦勞していた私に、前医局長の帖佐先生がいろいろとアドバイスしていただきました。学位取得はじめ大学医局勤務を無事に終わることができたのも、田島先生・帖佐先生はじめ、当時一緒に働いて頂いた先生方の御陰だといまでも感謝しております。

現在、同期の5人は、それぞれ違った方向に進んでますが、帖佐先生には、我々の原点の大学医局を、先生の個性の輝く医局に発展させていかれることを期待し、いつまでも応援していきたいと思います。



A4.

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
人数	3	6	5	12	10	20	15	11	5	6	7	6

- ・6月生まれが20名で断然トップ。4～8月生まれは各月とも10名以上で、なぜか春・夏生まれが多いのが特徴。最少は1月生まれの3名。宮崎整形外科はやはり暖かいのがお好き!?



帖佐悦男教授御就任にあたって

柏木輝行

帖佐先生、教授御就任おめでとうございます。田島直也先生のエネルギッシュな教室運営をさらに体力、気力の充実した帖佐先生にバトンタッチされ、将来楽しみな教室の始まりです。

帖佐先生と初めて話をしたのは、江南病院（現社会保険病院）に勤務されていたときです。江南病院から紹介された7才のEwing肉腫の女の子のbiopsy時の所見を聞きに行ったときでした。廊下で待ってる時、むこうから大きな声でベラベラ話しながら来る2人の先生がいて、えらい元気な先生たちだと思ったらそれが上塚先生と帖佐先生でした。「こんにちは、この症例ですが……」と言っただけで、あとはお二人が全部話してくださり、「ありがとうございました」と私はほとんど話さず帰っていきました。その後、大学で股関節グループでいっしょに働かせていただき、たくさんのことを学びました。診察方法、画像診断、手術のポイントなど惜しげもなく教えてくださり本当に感謝しています。

手術で一番初めに教えていただいたのは、大腿骨頸部外側骨折のエンダー釘の手術でした。

そのころ帖佐先生と火曜、金曜で南郷の百瀬病院に出張させていただいていたときの手術です。消毒、ドレーピング、エンダー釘の持ち方、打ち込み方など言葉が機関銃のように手術室に響き、楽しくなつかしい思い出です。帖佐医局長当時、私は副医局長という名の雑用部隊として走り回っていましたが、「かしわぎー！」と遠く、近くで呼ぶ帖佐先生の声が研究室に響き、家に帰っても頭の中で響いていました。

頑張らない人には教えないけど、頑張る人には何でもとことん教えるといった後輩への指導方針には非常に共鳴し、このことはしっかり引き継いでいこうと思っています。

2年前より帖佐先生はラグビー部の部長、私が監督となりラグビー部コンパでお会いするのは不思議な縁です。これからも遊びも仕事も徹底的に、研究もますます発展されていくことと思います。今後も帖佐先生と教室の力となれるよう頑張っていきたいと思っています。

お体を大切にされ、すばらしい教室となることをお祈りしています。

Q5. 誕生日（日）ランキング：お次は何日生まれが多いでしょうか？

Q6. 同じ誕生日月日ランキング：同じ誕生日は果たしているのか？



歴代教授の先生方との思い出

黒木 龍二

帖佐先生、教授ご就任おめでとうございます。帖佐先生ご自身の努力は言うまでもありませんが、同門と教室員が一体となったことや、木村先生、田島先生の功績があらためて示されたものと思います。私が入局したのが木村先生のご退官を迎える年で、木村初代教授、田島前教授、帖佐教授の3名の先生方に師事した最後の学年です。

入局当時は医局内が4つの臨床グループに分かれておりました。木村先生のリウマチ外来は我々研修医にとりましてはまさに戦争のようでした。当時はすべてが手書きでしたので、次から次に来院される患者さんの検査、処方方を診察されている短い時間で書かなければなりません。そのうち要領が分かってくると、外来日は先生が診察室に来られるまでに置いてあるカルテをすべてチェックし、検査伝票や処方箋を書き上げ、診察が始まると所見を記載する係と伝票類を書く係に分かれて黙々と作業を続けておりました。一方、武内先生は内部では「裏リウマチ外来」と呼ばれ、手術と同じく外来もその独特のペースにはまっていたものでした。当時

助教授の田島先生の側彎外来もかなり大変で、金曜日は朝から午後までゼロハンテープと定規、分度器を使い続け、ひたすら色鉛筆で線を引いていました。長鶴先生の股関節外来は所見がドイツ語で外来も大変でしたが、立ち会いX線から作図までの流れは1週間のうち最も緊張する瞬間でした。戸田先生、中村先生の上肢外来の5番診察室は今の処置室にありました。全員の弁当を買うのも大事な仕事で、戸田先生はいつも魚でした。私たちの学年は1年間できっちり4つのグループを研修でき、本当に良かったと思います。これも一重に平川医局長のお陰と、感謝しております。

田島先生が教授に就任されたのが、研修2年目でした。私はすぐに関連病院の向向が始まりましたので、短期間の帰局を除いてしばらく医局からは離れており、次に学内に正式に帰ってきたのが10年目でした。川越先生、蛭原先生の上肢グループに入れていただきましたが、何故かリハビリ外来担当にも任命されており、慣れないリハビリ用語に苦勞しました。その後に医局長という大役が待っていました。

A 5.

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
人数	5	4	7	6	3	5	2	3	3	3	5	2	2	8	3	
日	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
人数	5	1	1	5	5	6	2	5	4	1	0	1	1	4	2	2

・14日生まれが8名でトップ。2位は3日生まれの7名。満遍なく埋まっていますが唯一の0名は26日。二世を同門会に入れたい先生はこの日に産んで入会させてください。

前にこの会誌にも書きましたが、私が医局長をさせていただいた2年間は、巡り合わせが良かったおかげで担当学会や輪番制の研究会が重なっておりました。最後の方は学会屋のごとく、スムーズに運営できるようになりました。また学生勧誘も大事な仕事の1つで、整形に興味のある学生は焼き肉や中華、その他いろいろな作戦を施しました。自分が医局長の時に勧誘し、入局してきた先生はその後何かと気になるものです。

帖佐先生には、私が江南病院（現社会保険病院）に勤務していた頃、人工関節の手術をよくお願いしておりました。手術はいつも短時間で

終わっていましたが、手術後は毎回のように夜遅くまで反省会が催され、戸田部長、帖佐先生、ときに柏木先生も加わり、盛大に行われていました。私が医局長のときには助教授という立場で面倒をみていただき、困ったときには本当によく助けていただきました。

私が入局した16年前と比べますと、大学も大きく変わりました。システムやマニュアルばかりが先行し患者との距離は年々遠くなっているように思います。帖佐教授の指揮のもとで、少なくとも私たちの医局は人間味のある診療を続けてほしいと願っております。



A 6.

3名	4/3	4/4	6/14	6/24	8/21									
----	-----	-----	------	------	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2名	2/20	5/14	5/20	6/2	6/19	6/21	7/3	7/10	7/29	8/9	8/11	8/23	10/4
----	------	------	------	-----	------	------	-----	------	------	-----	------	------	------

- ・106名の集計なのでさぞやバラバラと思いきや、同じ誕生日は18組もあり。その上3人一緒が5組。特に4/3・4/4生まれでなんと6名。ある意味凄い！4/3生まれの帖佐教授に集まってきたのか!?
- ・因みに生年月日が全く一緒は3組。S42.4.4（渡部・吉田先生）、S46.8.11（川野彰・河原先生）、S47.7.10（市原久・池尻先生）が全く一緒。意外な組み合わせはS42.4.4組!?



帖佐悦男先生の教授就任にあたって

園 田 典 生

帖佐先生 教授ご就任おめでとうございます。先生には私が大学勤務に臨床面・研究面でいろいろとお世話になりました。また、医局長を任されていた年には雑務でたくさんのご助言をいただき無事に勤め上げることができたことを深謝いたします。

例えば、田島先生が就任される時は研修医2年目で大学内に在籍していましたが日常診療におわれ教授は田島先生がなるものとしか考えておらず周囲の諸先生方のご心労はわかりませんでした（入局時医局長のH先生ごめんなさい）。しかし、今回はさすがに帖佐先生に決まるまでは精神的に疲れましたし、決まってから安心して学外へ出向することができました。先生には今後、長期にわたってわれわれ教室員を指導していただくことになると思います。

そこで、いくつかのお願いがあります。

1：ご自分の健康管理をしっかりと

先生は私が最初にお会いしたころは全くお酒が飲めない人でした。しかし、いつの日か宴会のたびに先生は中国人手品師になられ、かなりお鍛えになられました。でも人間のアルコールを解毒する酵素はもともと決まっているともお聞きします。先生、教授ですから……。手品師になるのは年に数回で結構です。また、最近す

こしお腹のほうの貫禄も出てこられたと御見受けします。また、サッカーで一緒して（心地よい？）汗を流しましょう。

2：今まで同様に教室員の意見を聞いてください。先生のお考えをお伝えください。

先生のお人柄ですから言うまでもないでしょうが、教室員それぞれに希望を持って入局しております。教室制度そのものが危うい今日ですが、教室員個人個人の教室へ対する義務は当然ありますし、それを果たさない教室員は別としてがんばっているものにはそれなりに進みたい道をご指導ください。

それと先生のおやりになりたいことなどを医局員（まずは学内で結構ですので）にお伝えください。学内を中心に日々、診療環境・研究環境は変化していくと思いますので医局長以外の先生も含めてお話いただき、学外の教室員にもその話が伝わる機会が定期的にでもあればより教室としてまとまるのではと考えます。

以上、学外から生意気なことを述べさせていただきましたが先生を中心としてわが宮崎大学整形外科が益々発展していくことを祈願しております。

最後にひとこと。医局長がんばって。（先生のお体のほうが心配かも……。）



帖佐悦男先生の教授御就任にあたって

渡 邊 信 二

帖佐悦男先生、整形外科主任教授ご就任おめでとうございます。我々教室員一同の希望がかなう形になったことを心から嬉しく思います。現役の助教授が教授に昇任するということは体制が大きく変化しないということで、これはとりもなおさず今までに積み上げた実績の上に新たな実績を積み上げていくことが出来るということです。今後20年間あるわけですからゆっくりと腰を落ち着けて理想とする教室を実現してください。

田島直也名誉教授が退官されたのは平成15年3月でした。その後4月いっぱい次期教授の公募が締め切られ数名の方が立候補されたようです。噂のあの人もこの人もいるのかなと思いつつ、誰に聞けるわけもなく悶々とした日を過ごしておりましたが……

ここでのハプニングを一つ。ある先生からの電話

A 先生 「もう教授候補が3人に絞られたってね。帖佐先生残念だったね」
わたくし 「えっ！聞いてません。」

A 先生 「医局長のくせに情報が遅いね」
わたくし 「……」

もちろんデマでした。どこからこのような話が出るのか不思議でしたが、噂というのは怖いものだなとつくづく考えさせられました。情報錯綜というものはどこにでもあるものですが、

直接関わってない人にとってはただの興味の対象、ゴシップのネタなのですね。しかし、現実の話でなくてよかったです。

さて、そうこうするうちに夏休みが終わり、秋風が吹き始めると、宮崎大学との合併で「今は合併で忙しいから整形の教授選びはもう少し後で」ということになり、平成15年の内に終わるはずの教授選考が年を越すことに決定しました。

年が明けて、4月の新入生を迎える年度末までに決まるだろうという予想で気合を入れていたら、今度は卒業判定と入学試験が重なり、教授の先生方は忙しくなかなか前に進まない様子、しかし「もう決めないとさすがにまずい」と言ったかどうかは知りませんが3月の末に3人に絞られました。

この時にも有るような無いような噂がたくさん流れ、いろんな方がいろんな事をされたようですが、詳しくはあまり洒落にならないので紹介しません。詳しく知りたい方はお酒の席でも……。

さあ運命の4月28日です。3人の候補者が自分をアピールするための場です。遠くから来られている候補者から選考委員会の出した課題に沿って講演を行いました。この時の印象でかなり票が変わると聞いておりましたので連日連夜スライドと喋り方のチェックです。S本先生、

Q7. 記念日カレンダー：整形外科医として一番適した日『骨関節の日』生まれはいるのでしょうか？

H田先生、T郎先生お疲れ様でした。帖佐先生の講演は手前味噌ながらもスムーズで内容も良く吟味され大変素晴らしかったと思います。出席されていた先生方からも「大変良かった」とのご評価を頂きました。そして、講演終了後の臨時教授会、6階の研究室で待っていると血圧が150を超えているのがはっきりと分かるほど緊張しておりました。小一時間ほど経って最初に部屋に入ってこられたのはⅢ内科の中里教授で、帖佐先生と堅い握手。結果はOK牧場！でした。ちょっとした感動で涙が出そうでしたが早速手分けして教室員と同門会の皆様に連絡をしました。

ちょうどその日は日整会野球の結団式で焼肉を食って栄養をつけようと計画していました。わたくしと帖佐教授も出席するはずでしたが、急きょ同門会の先生方に報告会を行うことになり参加できませんでした。栄養会に集まって頂いた先生方ごめんなさい。お世話になった先生から「辞令が下りるまではくれぐれも騒ぐな」というご指示を頂きましたので、みんなと大騒

ぎしたい気持ちを抑え、心の中ではガッツポーズをとりながら美味しいビールを頂きました。

そして翌5月の16日正式に辞令が下り帖佐教授の誕生となりました。この日の帖佐先生のお顔がキリッとして見えたのはわたくしだけでしょうか。

振り返ってみると帖佐先生の人柄や実績もさることながら、教室内の団結が少なからず今回の結果に影響したものと思います。教室内に対立候補が立たなかったことや一人一人の先生が帖佐先生を支持すると表明して頂いたこと、そしてそれを最後まで突き通したことが評価されたのではないかなと思います。我々はただ状況を静観するしかなかったのですがハラハラドキドキの連続で胃がキュ〜ンと痛むいい年でした。

今回の教授選考では多くの先生方に関わっていただき、色々なアドバイスを頂きました。大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

A7. ・残念！10/8生まれはいませんでした。10/9生まれの本部先生がニアピン賞。因みに9/9『救急の日』もいません。4/7『WHO世界保健デー』生まれは矢野浩明先生。やはりBigな先生でした。

・記念日のおまけ：5/26『ラッキーゾーンの日』、10/27『世界新記録の日』、7/10『ウルトラマンの日』が面白そうでしたが、前2つに該当者はなし。7/10生まれは市原久・池尻先生でした。果たして2人は我が同門会のウルトラマンになれるのでしょうか？皆様乞うご期待を。



医局長就任挨拶

関本朝久

この度、前医局長の渡邊信二先生に代わり医局長を務めさせて頂くことになりました。若輩者で経験の少ない私が務め上げることができるかどうか非常に不安ですが、精一杯頑張りますので何とぞよろしくお願い申し上げます。同門の先生方にも色々とお迷惑をお掛けすることと思いますが何とぞご容赦ください。昨年は、台風の最多上陸や年の瀬にスマトラ沖の大地震が発生するなど災害の多い年でした。本年は年頭の好天の日々のごとく、おだやかな年であって欲しいと願っております。

さて、帖佐悦男教授新体制がスタートし、慌ただしく1年が過ぎようとしております。今後は20年にも及ぶ帖佐体制の進むべき方向を明確にし、教室が発展可能な礎を構築し始めたいと願っております。昨年は、4月に大学は法人化され、変革に向かって始動した歴史的な年でした。ご承知のとおり、大学は役員会の責任で運営され、病院経営は収支バランスという観点からの評価を受けることになりました。そのような中、医局の現状といたしましては、折からの新臨床研修体制で2年間新入局はなく、さらには開業、大学院進学などで関連病院への派遣に大変苦慮しております。このことに関しましては同門の先生方にも大変なお迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが何とぞよろしくお願い申し上げます。ところで、これまで勤務の都合により学位取得が困難であった先生方に、大学院医学研究科博士課程において夜間履修が

可能となりました。同門の先生方で学位取得をお考えの先生は是非御一報下さい。

私自身としましては医局長に就任して2カ月が過ぎました。この短期間においてさえも様々な事件が発生し、すでに歴代医局長の先生方の大変なお苦勞を痛感しております。私が入局した平成4年は、現在ご開業されている戸田先生が医局長をされていたらっしゃいました。研修医であった私たちにまで常に声をかけていただいたのを思い出します。当時と比べますと、明らかに私はまだまだ力不足と感じております。また、私は2年前から伝統ある宮崎大学整形外科野球チームキャプテンを勤めております。チームメイトのおかげで連続して日整会野球全国大会に出場していますが、これまで医局長とキャプテンを兼務された先生はいらっしゃいません。二足のわらじで中途半端と言われぬよう、精一杯がんばっていかうと決意しております。

最後になりますが、現在の様にさまざまな変革が起きようとする中、荒波を乗り切るために一番大切なことは、医局・同門会が一致団結し、ゆるぎない基盤を確立することだと思います。相互の信頼と協力、尊敬と感謝、そして思いやりがなければ成り立たないと思います。まだまだ行き届かない点多々ありますが、教室員のため、そして教室運営のために精一杯がんばってまいりますので、何とぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

❖❖❖ 大学近況報告 ❖❖❖



帖佐教授就任のお祝いおよび現況報告

鳥取部 光 司

この度の、帖佐悦男先生の教授ご就任を心からお慶び申し上げます。

私は、平成14年4月からリハビリテーション部へ異動することになりました。リハビリテーション部は、昭和52年の大学病院開院と同時に院内措置としての特殊診療施設となり業務が開始されていましたが、平成14年4月1日付けで、省令による中央診療部としてのリハビリテーション部となりました。これに伴い、専任医師と作業療法士が認められました。現在のリハビリテーション部の人員構成は、部長（整形外科科長併任）、副部長（リハビリテーション部講師兼任）、理学療法士2名、作業療法士1名で診療訓練にあっています。

診療内容に関しましては、大学病院といった特殊な性格上、急性期の患者が主体であるため、リハビリテーションが不十分であっても、原疾患が落ち着いた時点で転院せざるを得ず、転院先の医療機関との関係が重要となっています。リハビリテーション部で扱う患者の依頼科は全科に渡っており、現状ではマンパワーが足りず、厳しい状態ではありますが、少しでも充実したリハビリテーションを行えるようカンファレンスで検討をしているところであります。

本学におけるリハビリテーション医学講義は、4年生で実施されており、1コマ90分×15回と他大学に比較しても時間数は多く、本学学生にリハビリテーション医学の基礎を徹底して理解してもらえらる講義内容になるよう努力しております。

研究に関しましては、平成4年から研究課題として“整形外科のバイオメカニクス”に取り組み始めました。有限要素法の研究には時間がかかり、なかなか結果を出すに至らず、帖佐先生には随分励ましていただきお世話になりました。平成10年、バイオメカニクスの権威である米国アイオワ州アイオワ大学のDr.Goelのもとで研究をさせていただきましたので、当時の研究を引き継ぎ、現在は主として三次元有限要素法によるバイオメカニクスの研究や、三次元動作解析装置を使用した歩行の評価や動作分析を共同して行っております。

大学病院の使命として、診療のみならず教育および研究は常に要求されますが、物理的、時間的また体力的にも限界があり、質の高い活動は、十分にできていないのが現状であります。まだまだ自分自身の勉強不足を痛感し、叱咤激励の日々であります。帖佐先生率いる医局のためにも微力ながら頑張ってお参りたいと思っております。

リハビリテーション部の今後の展望は、帖佐教授のお力に期待するところが非常に大きいものがあります。温厚なお人柄と非凡な才能に私共医局員の人望は厚く、これからも引き続き御指導いただける事を切に願っております。

甚だ拙文ではございますが、この紙面をお借りしまして、これまで帖佐先生から賜りました御恩に心から御礼申し上げますと共に、これからもますますご活躍されますことを祈念いたしております。



「はじめての日整会、はじめてのスイス」

黒木浩史

脊椎班に長年所属しているため股関節を御専門とされる帖佐先生と一緒に仕事をさせて頂く機会は最近めっきり少なくなりましたが、研修医時代、医員時代にはたくさん面倒をみて頂きました。その頃の先生とのエピソードの中から印象深かった2つを紹介させていただきます。

最初に帖佐先生に教えを頂いたのは、遡ること15年、平成3年初めの研修医の頃で、長鶴先生率いる股関節班に配属されたときでした。お察しの如く日々非常に不安な気持ちでありましたが、私の上に柏木先生がおられさらにその上に帖佐先生と相当濃厚な面々が揃っておりましたので、長鶴先生からの厳しい御指導もかなり緩和され心に傷を負うこともなく過ごすことができました。ちょうどこの頃、京都での日整会で御発表される長鶴先生、帖佐先生に同行させて頂き、初めて学会出張を経験しました。学会の内容はともかく三人一緒に日本旅館の家族風呂に入り、和室で（真中の線が長い）川の字になって夜を過ごしたことを今でも鮮明に覚えています。良く熟睡できたものだとあの頃の自分に感心します。また当時は最近めっきりお目にかかれなくなったいわゆる中国手品をばんばん惜しげもなく披露されていました。

そしてもうもう一つの思い出は帖佐先生の御留学時代になります。平成7年5月にオラン

ダ、ドイツで開催された脊椎関連のセミナーに参加した私を、帖佐先生が当時留学されていたスイスのベルン大学に招待して下さいました。たった一人でドイツのフランクフルトから飛行機、電車を乗り継いでベルンの駅に到着し、西洋人の中に見覚えのあるお顔を拝見したときはかなり安堵した記憶があります。ベルン大学 Ganz教授の診療、手術見学は勿論のこと、本場のチーズフォンデュをご馳走になり、アインシュタインのアパートや熊の動物園などのベルン観光、そしてショッピングと非常に凝縮した時間を過ごさせて頂きました。しかし一番衝撃的だったことは、ホテルのフロント、レストランのウェーター、さらには地元の女学生とスイスドイツ語で流暢に会話されている帖佐先生の姿でした。短期間でどうやってマスターされたのかいまだに疑問です。

接する時間の少なかった私でさえこのように色々なエピソードがあるくらい帖佐先生は非常に後輩の面倒見が良いことがお分かり頂けると思います。教授に就任され、ますます業績を築かれると同時に今まで以上にわれわれ後輩を引っ張って行って下さればと思います。これまでの御指導に感謝致しますとともに今後とも宜しくお願い申し上げます。

Q8. 星座ランキング：占いカウントダウンは？



帖佐教授就任のお祝いと 上肢班近況報告

上肢班

矢野 浩明

21世紀に入り宮崎医科大学は、宮崎大学医学部となり、我が教室においても今後更なる発展のために帖佐先生が、第3代教授に就任されました。帖佐教授就任おめでとうございます。これからは医局員並びに同門会の諸先生方の強固な協力の基、宮崎県の整形外科医療の為にそして教室が更なる発展を遂げられるよう宜しくお願い致します。

私は現在スポーツ・上肢班に所属しており、主に上肢を担当させていただいております。昨年まで病棟医長という任務を任されておりましたが、1月から濱田新病棟医長に引き継ぐことができ肩の荷が少し軽くなった所です。世の中は、市町村の合併が何かと話題になっておりますが、我々も旧スポーツ班と旧上肢班は合併し

て早5年、診療に厚生に仲良くやっております。もし合併がなかったらと考えると……本当にメンバーに感謝いたします。

主な仕事内容については以前とほとんど変わらないと思いますが、合併の効果でスポーツの手術に入る機会が多く（と言うよりほとんど）、大学に帰ってきてから一番うまくいったのが前十字靭帯の細工（自称；無形文化財）ではないかというくらいです。上肢の手術に至っては1年間で同一手術があるのは数例のみと言った具合で先天性疾患・神経疾患・腫瘍・外傷etc.多岐に渡っており、非常にやりがいのある分野だと思います。今後もメンバーと仲良くさらに前進できるようがんばっていききたいと思います。

A 8.

星座	山羊	水瓶	魚	牡羊	牡牛	双子	蟹	獅子	乙女	天秤	蠍	射手
人数	3	4	6	13	10	16	17	12	7	6	3	9

・誕生日（月）と同じくやはり夏の星座が上位を占め、かに座17名・ふたご座16名とワンツー。山羊座・蠍座が最少で3名。



下肢班の現況

坂本 武郎

下肢班は現在、帖佐教授の指導の下、私のほかに渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、野崎正太郎、前田和徳、小松奈美、福嶋秀一郎の計8名で頑張っております。

対象疾患は、もちろん下肢全般ですが、股関節の関節温存手術、人工股関節置換術、人工膝関節置換術を中心に手術症例を少しでも増やすようにしております。

最近の特徴としては、やはり平均寿命の延長に関連してか、人工関節の再置換や転移性骨腫瘍の手術が徐々に増えてきたような感じがします。

帖佐新教授は、本当に数多くの出張・会議にもかかわらず、火曜・水曜の外来はもちろん、手術にもできるだけ顔を出してもらっております。相変わらず、毎朝、病棟の患者さんのところにも顔を出されており、「疲れた、疲れた」といってる割には非常に（異常に）activeに毎

日動き回っているようです。

また、下肢班のカンファレンスでも以前と同様に、下のメンバーの意見も聞いてくれ（もちろん通るとは限らないが）、そう堅苦しくない雰囲気のカンファレンスできていると思われ、これは続けていかなければならないものと感じております。

また関連病院の先生方には、多数の患者さんを紹介していただくのに、入院までに日数がかかったり、また術後の急な転院などで多大な迷惑をおかけしております。今後、これからも含め、いろいろな体制を作り上げていかなければならない時期であります。

病診連携では、合同のクリニカルパスなどもこれからは必要になっていくのではと考え、その際にはまた、関連病院の先生方のご意見も伺いたいと考えております。

今後ともよろしく願います。





帖佐教授就任のお祝いおよび現状報告

濱田 浩朗

帖佐先生、この度は第3代整形外科教授就任おめでとうございます。また、教授就任にあたり御協力いただいた田島名誉教授をはじめ諸先輩方に対しまして、一後輩として厚く御礼申し上げます。私に原稿の依頼が来るということは入退院係りとしてなのか、病棟医長としてなのか、はたまた研究者としてなのか困惑いたしますが紙面も限られている故、主に研究に関して御報告いたしたいと思います。

そもその発端は、私が大学院2年生のとき、研究にいきづまり困惑していた私にペプチド化学への道を勧めてくださったのが帖佐教授でした。その後、第一内科の北村和雄先生のもとアドレノメデュリンのもとで御指導いただき現在、当教室において私の多少知りえたる知識としてのペプチド化学の研究を6階の奥の部屋（昔は平川先生方の勉強部屋？だったようですが）、二階 生化学共同実験施設、組織培養センター、及びRIセンターで行っております。

現在のテーマはアドレノメデュリンが関節炎に及ぼす影響を調べることであり、帖佐教授が2002年度に萌芽的研究にて科研費を受けたことによって、当研究において骨芽細胞における

アドレノメデュリン（AM）が増殖促進に働くこと、また、正常人に比べ関節リウマチのAMの値が血中、関節液中、滑膜組織中において高値であること、軟骨細胞は脱分化するとAMを多量に分泌することを明らかにすることが出来ました。（J.Rheumatology, BBRC, Peptides に記載）

今年度は、さらに再び基礎研究基盤にこのテーマの続きが採択され3年間の研究費がおりましたため現在、教授指導の下に修士生、4月からは大学院生とともにAMの抗炎症作用及び治療薬としてのAMの作用を模索しております。

また、科研とは別に平行して抗CCP抗体、CARFとの早期リウマチの有用性の検討を病態生理学講座と、 β -エノラーゼ（筋逸脱酸素の一種）のモノクローナル抗体の作製の法医学講座と共同研究しており進行中であります。

年1本は英文投稿をするようにし宮崎大学整形外科の存在を世界にいくらかはアピールできるようにしたいと思っておりますので、諸先輩方及び同門の先生方におきましては御理解、御協力の程よろしくお願い申し上げます。



スポーツグループの近況報告

河原 勝博

現在スポーツグループは長年チーフを務められた園田典生先生が平成16年5月に藤元早鈴病院に異動され代わりに河原が加わり、現在山本先生、ローテートの先生3人で担当しています。外来は火曜および金曜日が山本、水曜日を河原が担当しています。手術に関してはACL、PCLの再建術および半月板損傷、骨軟骨損傷など関節鏡手術、その他足関節骨折靭帯損傷などスポーツに関連した疾患を中心に行っております。手術症例は平成14年度65例、15年度79例、16年度51例でした。ベッドに関しては上肢グループと協力しながら現在10床でやりくりを行っています。また国体や県強化選手などのメディカルチェック、国際青島太平洋マ

ラソン、宮崎女子ロードレース、シーガイアトライアスロンなどのサポートなども行っており、今後はこれら以外にも大学を中心として体協のスポーツドクターなどに協力していただき、宮崎県の競技力向上のために少しお役に立てればと思っています。

昨年は手術症例および外来受診者数が2年前および3年前と比べ減少しており、園田先生の抜けた穴の大きさの痛感した一年でありました。今後も関連病院や同門の先生方の期待に応えるべく努力していきたいと思いますので適応する患者様がいましたらご紹介をお願いしたいと思います。



Q9. 血液型ランキング：A型：O型：B型：AB型は一般的には4：3：2：1の比率といわれていますが？



宮崎社会保険病院の近況

本 部 浩 一

今回は帖佐教授就任記念号とのことで、まずは心よりお喜び申し上げます。ならびに開講30周年誠にありがとうございます。帖佐先生は我々が入局した当時からよくご指導いただき、その当時から大先輩にもかかわらず気さくで面倒見がよく、多くの後輩から慕われていました。これからもみんなのよき先輩として教室を引っ張っていただきたいと思います。

次に宮崎社会保険病院の現況報告をさせて頂きたいと思います。私自身は田辺先生の後任として昨年7月より勤務させて頂いておりますが、この1年足らずの間に、脊椎専門医の田辺先生が去られ、更に栗原先生も異動になり脊椎専門医が不在になってしまいました。何とかそ

の穴を埋めようとスタッフ一丸となって努力していますが、まだまだ力不足で同門の先生方にもいろいろとご迷惑をおかけしていることと思います。足りないところは野球で培ったチームワークでがんばっていきますのでよろしくお願いいたします。

当院の特徴としては一昨年開設した回復期リハビリ病棟があります。このため下肢や骨盤、脊椎の術後のリハビリをじっくり行うことができるようになり、しかも一般病棟の在院日数を大幅に短縮できました。こちらの病棟も、院内、院外を問わず適応があれば受け入れ可能ですので症例がございましたらご紹介よろしくお願いたします。



Q10. 出身高校県ランキング：出身県は不明ですので、出身高校県でご了承下さい。



近況報告

飯 千 明

帖佐先生、教授ご就任、誠にめでたうございます。

長年、宮医大（現宮大医学部）整形外科教室を牽引してこられ、医局員にも大変親しみのある先生が長になられ、心よりうれしく思っております。

さて、当院の近況ですが、平成12年に日本医療機能評価機構による機能評価認定病院となり早5年経ち今年11月に再評価を受けます。また、今年4月から個人情報保護法も施行されたこともあり、病院全体で様々な取り組みに追われる毎日です。（各種委員会もなんと30あります。）

院内はコンピューターネットワークによるオーダリングシステムが確立し、病棟、外来の端末からは、外来・入院患者数、各病棟稼働状態が毎日リアルタイムでわかり、各科ごとの患者数と平均在院日数、収益が前年度実績と今年度計画との比較ができるように月次報告されます。また、NTTの病院ということもあり、無料で各端末からのインターネットへのアクセスも可能です。（ただし、業務に関係のあるサイトという規制はありますが）病院のホームページ (<http://nttkyushuhp.on.arena.ne.jp>) も開設

しておりますので是非一度御覧下さい。

整形外科としては伊勢紘平先生をはじめ、飯千（平成4年卒）と吉田（平成8年卒）の3人でリウマチ、関節外科（特にTHA、TKA）、外傷や骨折一般を中心に診療しております。伊勢先生は院長職と臨床とで相変わらず多忙な毎日を送られております。機能評価がきっかけで始めた禁煙も続いておりますが、そのせいで体重が増え、腰痛の訴えが多くなったようです。

吉田先生は今年3月に3女が誕生し、スロット通い（パチンコマルハン小山店が行き着けで、マルハン症候群と診断されたことも）は泣く泣く断念し、今のところ育児協力と当直に専念しています。

私、飯千は病院前のダイエー内にあるスポーツクラブで、暇をみつけては体力、筋力作りに励んでおります。病院イメージアップを目的として作られたポスターのモデルになり、院内あちこちの壁面からインチキ臭い笑みを浮かべています。

最後に、帖佐教授をはじめ医局員の皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

A10.

宮崎	鹿児島	熊本	福岡	兵庫	長崎	東京	埼玉	富山	岐阜	和歌山	広島	愛媛	沖縄	その他
73	7	7	4	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1

・14県より集結。地元宮崎が73名（69%）と圧倒的に多く郷土愛を感じます。次いで鹿児島・熊本、福岡の順でやはり九州圏内が多かったです。遠くは埼玉？富山？沖縄？いやいや、スイスの日本学校卒業の小松先生が一番遠方でした。



国立病院機構都城病院より近況のご報告

内 田 秀 穂

昨年7月1日付で本部先生の後任として都城病院勤務となり、早くも10カ月程がたちました。私が赴任して1カ月後には、それまでがんばってくれた上通先生が異動となり、後任としてさらにがんばってくれるはずの村上弘先生がきてくれました。現在、税所先生をトップに3人で当院の整形外科の診療を担当しております。当科の特色としては一般整形外科のほかに、リウマチ性疾患の治療や、糖尿病や人工透析中などの合併症のある患者の治療が多いという点にあり、関連各科と連携して治療を行うことも少なくありません。特に赴任当初驚いたのが糖尿病性壊疽をはじめ難治性皮膚潰瘍のため整形外来を受診する患者の多さです。紹介されてくる方もあれば飛び込みで受診する方もいます。都城地区の人々は性格も穏やかで礼儀正しく、骨が露出した手足でにこやかに挨拶されます。なんとか外来処置でなおしてあげたいと思

うのですが、結局切断になることも少なくありません。村上先生なんかは切断がしばらくないと寂しそうに見えるほどです。また都城の医師会病院の夜間救急センターには整形外科医師がいないため、交通事故やその他の事故で少しでも骨折があったり、上下肢に外傷などがあると当科に転送依頼があります。特に時間外の開放骨折や、整復固定を要する小児の骨折などは麻酔の関係もあり、当科に治療依頼がくることが多いため、交代で都城に待機して救急に対応しています。時にはびっくりするような外傷もきますが税所先生のご指導のもと、みんなで知恵と体力を振り絞り、なんとか最善の治療をするべくがんばっています。私も月のうち半分ほどは都城で寂しく単身赴任の生活をしておりますが、辛抱すればそのうちきっといいこともありますよね？

Q11. 出身高校ランキング：出身高校派閥はあるのか？



帖佐教授就任のお祝い及び現況報告

神 菌 豊

帖佐先生、宮崎大学医学部整形外科教授就任、おめでとうございます。同教室の今後のますますの発展と先生のご活躍を祈願いたします。

さて、当科では、外傷を中心として毎年約500件の手術を私を含めて4人のスタッフで行っております。これまでは比較的安定した成績が予想できconvensionalな方法を主に採用してきましたが、今後はなるべく新手法を取り

入れ、より良い成績を目指すとともに学会活動も活発化したいと考えております。

ところで昨年より当院の目前に巨大なイオンが建設されています。今春の開業後は一気に人々が溢れ、いろいろなトラブルが勃発しそうな気配がとに感じられる今日この頃です。私の医師会病院医長就任7年目は大変な年になりそうです。



A11.

宮崎西	宮崎南	都城泉ヶ丘	日向学院	宮崎大宮	高鍋	鶴丸	延岡	都城西	延岡東	小林	熊本	鹿屋
22	10	8	8	7	5	4	3	3	2	2	2	2

・41高校から集結。宮崎西高が22名でトップ。次いで宮崎南、日向学院・都城泉ヶ丘、宮崎大宮、高鍋の順で、県外最多は鶴丸の4名。さすが、教授の出身校。



帖佐教授就任のお祝いと 公立多良木病院の近況報告

浪平辰州

帖佐先生、宮崎大学整形外科教授御就任おめでとうございます。帖佐先生の優れた識見と敏腕、実績からすれば当然のことでしたが正式に決定するまでは情報も少ない、遠い多良木の空からやきもきの日が続いたことが昨日のようです。

教授の希有なるバイタリティーで当教室とその関連病院そして宮崎県の整形外科界を強力にリードしていかれるものと期待しております。帖佐教授の御活躍はこれからますます脂が乗って来られることと思います。教授にしかられないように一生懸命努力していきたいと考えておりますので今後とも御指導のほどよろしく願います。

さて公立多良木病院の御紹介ですが、当科は昭和59年に平川俊一先生が最初に赴任されてから今日まで関連病院のひとつとしてとぎれることなく継続させていただいています。宮崎県えびの市、須木村と九州山地で接する位置にあり辺鄙なところですが約3万8千人の医療圏を抱えた中核病院です（MR Iはなく麻酔科医、放射線科医もいませんが……）。1年間の整形

外来総患者数約32000人、入院延患者数約12000人という整形外科ニーズの高さです。手術は年間約290例程で外傷を中心として変性疾患にもすこしずつ進出しようとして試みています。地域医療中心の病院ですので臨床にもとづいた学会発表をとこころがけてなんとか関連病院としての特徴をだそうと苦心しています。

帖佐先生には講師でいらっしゃったところから遠いにもかかわらず快く、年2～3回TKA、THAなどを中心に手術指導にきて頂いており、高度な技術を直接みて勉強することができ非常に感謝しております。また昨年7月には教授になられたばかりの超御多忙な時期にもかかわらず当院の病診連携委員会主催の講演会に講師として来て頂き、大成功におわかりました。さらに今日の研修医制度に伴いどこの医局も医師の引き揚げがあっている中、長らく2人体制であったところを3人体制に増員していただきました。今後とも帖佐教授の名を汚さぬ様がんばりますので教授をはじめ同門会の皆様にはよろしく御指導の程おねがいもうしあげます。

Q12. 出身大学ランキング：気になるのは2番手争いか？



近況報告

安藤 徹

宮崎市から車でちょうど1時間、勤務地である独立行政法人国立病院機構宮崎病院（以前の国立療養所宮崎病院）は宮崎市と延岡市のほぼ中央に位置します。平成16年4月1日から病院名は上記の如く変わり、新たな病院として生まれ変わるためにスタートしました。この病院には現在内科3名、小児科3名、整形外科2名、放射線化1名の計9名の常勤医師がいます。研修医制度が変わり、どの病院も医師確保が困難な現在、この病院もその例外ではありません。この数年は徐々に医師数は減少、特にこ

の一年は非常に何もかもが大変でした。病院のさまざまな担当業務に加え、近隣の町村内では整形外科の手術可能な入院施設が減少し、患者さんの診療においては忙しい日々が続いたものでした。ただ忙しい中にも貴重な経験を数多く積めたのも事実です。充実した日々は時間が過ぎ行くのも早く感じさせ、気がつけば入局して10年という節目の時を迎えようとしています。これからもそういう流れの中にもわずかな時間、ひとつひとつの経験を大事にして頑張っていこうと考えます。



A12.

宮崎医大	福岡大	久留米大	防衛医大	関西医大	川崎医大	香川医大	佐賀医大
72	5	3	2	2	2	2	2

・24大学から集結。最多は当然宮崎大学（前宮崎医大）で72名。次いで、福岡大、久留米大の順。表以外は1名ずつで16校。



こども療育センターの現状報告

柳 園 賜一郎

県内唯一の肢体不自由施設ということで私と山口所長、さらに今年度から研修医枠が常勤枠となり、大学病院より福島先生を新たに迎えて肢体不自由児に対する整形外科診断・治療を行っています。小児科医は1名が常勤です。外来は再診が月曜日終日（在宅で暮らす障害児が学校を休まず診察に来られるように）、金曜日午前中で、小児という特性から充分時間をかけて診察、ご家族とお話ができるように木曜日は一人1時間近い時間枠を設けて新患外来としております。

手術日は火曜日で内訳としては脳性麻痺児・者に対する痙性コントロール手術(Orthopaedic Selective Spasticity Control Surgery, OSSCS)をメインに行っています。また二分脊椎児の下肢の治療や、先天性内反足、先天性股関節脱臼に対する治療等も症例は

少ないながら行っています。EBMに基づいた治療ということで、厚生労働省障害保健福祉総合研究事業の中の手術効果の評価班に所属し、術前・術後評価の確立に向けて他施設と協力しながら行っています。また今年度従来からあった三次元動作解析装置を更新しまして、障害児の歩行をより客観的に関節の動きはもとより、力学的な評価を行い臨床的に治療に還元できるようになればと考えています。

養護学校や特殊学級の充実により障害児は在宅で生活できる環境が以前と比べると整ってきてはいますが、医療面での地域での受け皿はまだ小さく今後県内の医療機関との連携がさらに大切になってくると思われます。同門の先生方にもご協力をお願いすることがあると思いますので今後ともよろしくお願い致します。

Q&A13. 地元高校・宮医大出身：43名。最近宮崎県出身の宮大医学生が少なくなっている
ので意外に多い？



済生会日向病院

石田 康 行

帖佐先生、教授就任おめでとうございます。
我々も微力ですが教室を盛り上げていければと
考えています。

当院の近況報告をさせていただきます。当院
は内科、外科、麻酔科、小児科、耳鼻科、放射
線科、整形外科の常勤で、204床の病院です。
整形外科は酒井副院長のもと、石田（H8年
入局）、海田先生（H10年入局）の3名でが
んばっています。多種多様な症例を経験させて
いただいています。手術は年間約300例で内容
は骨折、手の外科、鏡視下、その他です。い
つも患者さんに喜んでもらえる手術を心掛けて
行っています。

当院は中規模の病院でコメディカルスタッフ
とも顔が見える状態で、良い雰囲気の仕事がで
きています。

毎週金曜日の早朝は県立延岡病院のカンファ

レンスに参加させていただいています。木屋、
弓削、藤本先生はじめ若手の先生にはいつも親
切にご教授頂き困っている症例の相談にももの
つていただいています。建設的な意見が飛び交い
理想的なカンファレンスができていると自負し
ています。

しかしながら4月より産業医大から派遣さ
れていた脳外科が撤退し、病院全体縮小傾向で
す。

当院はまだまだ可能性がある病院です。患者
さんに喜んでもらえる医療を提供できるよう精
進していきたいと考えて。

日向は魚もうまいし、肉もうまいです。楽天
も来るし、欽ちゃんも来ます。同門の皆様、日
向におこしの際は御一報頂ければいいお店紹介
させていただきます。

Q&A14. 宮崎医大入学同期：S61年入学が11名。ただし、諸事情により4学年に渡るが、
101名の同期入学のうち1割強が当同門会に入会って凄い!?



帖佐教授就任のお祝い、 および現況報告

塩 月 康 弘

帖佐先生の教授御就任、心より御祝い申し上げます。これからも一医局員として、微力ながらも教室のために頑張る所存であります。

さて私が高千穂に赴任しまして早3年が経ちました。平成15年7月から五ヶ瀬町立病院は平日の午前中および木曜日の午後の外来・当直といった勤務形態となりまして月、火、水、金の午後は高千穂にて手術などの業務を行うようになりました。これにより3人体制で手術に臨めるようになり麻酔管理、イメージ操作などかなり改善され手術がより円滑に行えるようになりました。手術件数は年間平均約230件程で、外傷が中心です。高齢者の大腿骨転子部骨折の症例数が最も多く、自分なりの手技の工夫を取り入れつつ3人であーでもない、こーでもないと言いながら取り組んでおります。アキレス腱断裂につきましては術後外固定を用いない方法

で治療しており、これまで良好な成績を得ております。人工関節と脊椎は県立延岡病院へ紹介させて頂いております（木屋先生いつも大変お世話になっております）。

「高千穂」というと「山間部」といったイメージを持たれる方がおられると思いますが道路整備が進み延岡まで50分程ですし、熊本空港まで1時間30分しか？かかりません。観光名所の高千穂峡も子供を連れて歩いて行けます。高千穂牛（初栄2号店出来ました）は美味しいし、新鮮な魚が食べられるお寿司屋さん（竹・正）もありますし、QOLは高いと思います。

今後いつまで高千穂に居れるか判りませんが勉強を怠ること無く、地域医療の一端を担えるように努力していきたいと思っております。

Q15. 氏名（読み）の長さランキング：最短・最長は誰？



（財）弘潤会 野崎東病院 整形外科の近況報告

樋口 潤 一

（財）弘潤会 野崎東病院は宮崎市の北部、村角町にあり開院10年を経過し地域に密着した医療を理念に掲げ診療を行っている。整形外科は平成11年7月から野中隆史先生が着任後、同年11月には樋口が着任し、スポーツ整形外科、関節鏡視下手術を中心とした整形外科診療を開始した。その後、森治樹先生（平成12年7月～13年12月）、平成14年1月からは河原勝博先生（14年1月～12月）、岡田麻里先生（14年1月～15年6月）が着任し3人体制になり、井上篤先生（15年1月～16年12月）が肩関節鏡を行うようになり整形外科の診療が充実していった。さらに平成15年4月には田島直也名誉教授をお迎えし、さらに脊椎外科部門として後藤啓輔先生も一緒に着任され、一気に5人体制へと短期間に整形外科診療部門が充実されていった。現在は田島院長を筆頭に樋口、後藤啓輔、後藤英一、大倉俊之（4月から大学院進学）の5名という関連病院の中では大所帯である。

平成15年4月の田島先生着任以来、田島先生の診療の二本柱である脊椎外科とスポーツ医学を中心とした診療を行い入院患者、手術症例

ともに右肩上がりが増えてきている。現在、脊椎外科手術が年間80例を超え、また関節鏡視下手術も年間150例以上、鏡視下以外のスポーツ症例が約50例と特色ある（特異な）整形外科となっている。田島先生とともに後藤啓輔先生が着任してからの脊椎外科手術症例も飛躍的に伸びており、近隣だけでなく県内各地から紹介患者で定例の脊椎外科手術日だけでは足りない状況になっている。顕微鏡下のヘルニア摘出術（micro Love）だけでなく、MED(Microendoscopic Discectomy)も行われるようになり低侵襲の脊椎外科手術が数多く行われ、評価を得ている。またアスレティックリハビリテーションセンターを併設しており、スポーツ外来での診療も当院の特色の一つとなっている。北は延岡、高千穂、南は日南・串間、さらにえびの・小林まで全県下からスポーツを愛する方が受診されており、スポーツ診療の野崎東という認識が選手・指導者の方にも広まっているようである。そして樋口が着任して以来ホンダロックサッカー部のメディカルサポートをチームと病院との契約という形で行っており、シーズン中の傷害の診療のみならず、試合

A15.

	4文字	5文字	6文字	7文字	8文字	9文字	10文字	11文字
人数	1	10	32	50	32	8	3	3

・最短は4文字の魏（ギ クニオ）先生。最長は11文字で柳園賜一郎・山口政一朗・福岡秀一郎先生。ここは濁音が2つ入って、マス入力では13文字による柳園（ヤナギゾノ タイイチロウ）先生が No.1 に。

への帯同、シーズン前のメディカルチェックも行ってきた。2005シーズンからホンダロックサッカー部は念願のJFL(アマチュアの全国リーグ)への昇格を果たしたが、微力ながらこれに寄与できたことも当院整形外科の成果であり、これからもこのサポート体制は継続して行く予定である。

他にも腰痛教室や転倒予防教室など疾病予防の観点に基づいた患者様への指導教室も田島院長の発案で行われており、現在のスタッフ数ではまかない切れない状況も起こりつつある。宮崎大学整形外科からスタッフが赴任して5年を経過し、野崎東病院整形外科が近隣の同門の先

生だけでなく全県下の整形外科の先生にも広く知られるようになってきているものと思っている。平成16年4月からは田島先生が病院長に就任され整形外科診療はますます充実されており、今後も特色を生かした整形外科の発展が期待される場所である。そして、これからの5年間でさらに充実、拡張していくことで関連病院としての診療・教育・研究の役割を果たすことができるのではないかと考えている。長期的なビジョンと確固たる信念を持った診療を行うことが野崎東病院整形外科に課せられた使命であらう。



Q16. 名字ランキング：名字で多いのは？ もう分かりますよね。

我 40 にして惑わ……

樋 口 潤 一

帖佐悦男先生の教授ご就任誠におめでとうございませう。久留米大学を卒業して宮崎に帰るにあたり叔父に探してもらったマンションの部屋が、当時江南病院（現宮崎社会保険病院）にお勤めの帖佐先生（新婚）の隣であったということから縁が始まっており、そのおかげで品行方正な研修医時代を過ごしたことを昨日のことのように思い出されます。あれから15年が過ぎ自分も中堅の域に達しつつありますが、40歳を越え今の自分を少し反省してみたいと思います。

（財）弘潤会 野崎東病院整形外科に異動を命じられてから5年半となり、その間に病院での臨床に関しては関節鏡視下手術とスポーツ医学という二本の柱を中心とした関連病院としての特性を伸ばせるようにやってきたつもりではありますが、まだまだ目標とするレベルには到達できていないと思っています。日常診療の忙しさを言い訳にデータのまとめや研究会・学会発表を怠っており、その成果を客観的に評価して頂く機会が無いことも反省点の一つです。

しかし、それなりの成果も出せています。5

年間お世話をさせて頂いたホンダロックサッカー部が念願のJFL昇格を果たし、一つの結果を出せたことは野崎東病院でのスポーツ診療の一つの成果と考えています。

また、院内での診療以外にもいろいろな経験をさせて頂いております。特に2002年には日韓ワールドカップにあたりキャンプ誘致の中で医療体制作りにならずさわせて頂き、さらに準優勝したドイツのリエゾンドクターの仕事も経験できました。また、この年はU-16日本代表のドクターとしての活動もできました。このチームは残念ながら世界大会への出場はできませんでしたが、選手、スタッフとは今でもサッカーの現場で会うことができ大切な宝物です。

その後2003年からはU-18代表（大熊ジャパン）のスタッフとして活動させて頂いており、この年にはアジアユースの一次予選（仙台）にも帯同できました。さらに2004年にはU-19日本代表となり昨年9月にはマレーシアでのアジアユース大会で約1ヶ月という長期の海外遠征、大会を経験し、ここでは今年行われるワールドユースの出場権も獲得することができまし

A16.

5名	2名						(*夫婦)
黒木	河野	川野	後藤	坂本	田島	中村	福嶋*
	松岡	村上*	山口	矢野	吉田	吉川*	渡辺

- ・黒木が5名で最多。2名は14組でした。ちなみに読み方では、かわの（河野・川野）・ふくしま（福嶋・福島）・わたなべ（渡辺・渡部）が3名（この読みの河野立先生は省く）でした。

た（先日の宮崎スポーツ医学研究会で報告させて頂きました）。その後も今年1月にはカタール遠征など年間に病院を留守にする期間が少し長くなってきたかなと思っています（=家庭にもいない期間）。

今年6月にはオランダでのワールドユース（20歳以下のワールドカップ）があり、これが今のチームの区切りとなるのでそれまでは、周りに迷惑をかけながらやっていきたいと思えます。

また、個人的には昨年はスポーツマスターズに出場するサッカーの宮崎県選抜に入れて頂き（選手として）九州予選を戦いました。結果、

全国大会への出場権を獲得したものの、私はアジアユースでマレーシアに行っていたため全国大会には出場できませんでした。今年は全国大会出場を狙います。

これまでの15年は田島直也名誉教授の薫陶を受けスポーツ医学を研鑽させて頂きました。そして、これからは帖佐悦男教授の下で、スポーツ医学を志す若い先生たちに少しでも影響を与える仕事ができればと考えています。

“40にして感わず”という言葉がありますが、あと2～3年はあちこち迷いながら進んでいこうと思っています。今後ともご指導・ご鞭撻よろしく願いいたします。



A16のおまけ①：全国名字ランキング

全国	佐藤	鈴木	高橋	田中	渡辺	伊藤	山本	中村	小林	加藤
	1	0	0	1	2	0	1	2	0	0



帖佐先生教授御就任 おめでとうございます

深野木 快 士

平成16年度から始まった卒後臨床研修制度により大学の医師不足が決定的になり、派遣先の施設は定員を削られはしないかと肝を冷やしていたと思われませんが、残念ながららえびの市立病院は平成17年1月より1人減となり、結果1人体制での再出発となりました。去年までの実績に照らし合わせてのことだと思われるので、不平・不満はありません。むしろ自分の実力不足のせいだと反省させられます。しかし、毎日のルーチンワークは突然2倍になったのですから、やはりハードです。そのため、今年から整形外科だけ再診予約制を取らせて頂いております。まだ十分浸透していないものの、市民の皆さんはとても質朴な人柄の方が多く、何処から聞いてきたのか初診の人でさえ前日に予約を入れてくれる有様です。医師は患者さんに支

えられ勉強させられ少しずつ成長します。市民の皆さん相手だと、こっちが甘えてしまいがちですが、そこは“初心忘るべからず”で、私が入局し最初に教えを請うた、帖佐先生の病気に対する基本的な考え方や、患者さんやその家族との接し方を金科条とし、皆さんの健康に微力ながら役に立てればと思って日々精進しています。

最後に、田島教授が虎の子のように愛情を込めて育ててきた宮崎大学整形外科を継承され、たくさんの重責を負っていらっしゃると思いますが、帖佐教授であればこそ、そのプレッシャーを楽しみながら、宮崎大学整形外科を牽引して頂けるものと信じております。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

A16のおまけ②：宮崎県名字ランキング

宮崎県	黒木	甲斐	河野	日高	佐藤	長友	田中	中村	児玉	山下
	5	1	2	0	1	0	1	2	0	0

・全国ならび宮崎県ランキングで比較すると全国トップ4の佐藤・田中は1名ずつで鈴木・高橋は0に対し、日高・長友はいませんが黒木5・甲斐1・河野2と宮崎色が出ています。



串間市立病院近況報告

川 添 浩 史

帖佐教授、ご就任おめでとうございます。私達の先輩であり仲間である先生が教室の長となり、今後の運営に当たられることに、正直ほっとしましたし非常にうれしく思っています。ご就任後まだ日も浅く何かとご苦勞が多いのではないかと思います。

しかしです、今串間市立病院もとても大変です。今年の5月に新病院が完成し全面的に引越します。また、新病院移転に伴い一気に全面的に電子カルテに変わります。（この文章を書いている2月下旬、未だ電子カルテを一回も見てません。ほんとに出来るのか不安を通り越してあきらめの境地です。この同門会誌が発行される頃には新しいところでんやわんやしているはずです。）

新病院の建築に当たってはその設計の階段からかなり意見を求められ、手術室や救急外来、整形外来等の間取りや設置する棚などの家具、備品など私の意見も多くとりいれられており、今後数十年使用することを考えると、良かったのかなと考えずにはられません。（何年か先、

誰がこんな設計したのか、使いにくいよーなんて文句を言われるんでしょうね、きっと）当然、酸素も中央配管でロケット弾が運ばれてくることもありません。手術室にゴキちゃんが挨拶に来ることもなければ、なんと更衣室にもエアコンが付くんですよ。（このあたりについては以前の同門会誌をご参照下さい。）

これまで病院が汚いという理由で手術や入院を敬遠されていた患者さんもいらっしゃいましたが、今後そういった患者さんも減り、現在年間200例程度の手術件数が有りますが、それももう少し増やすことが出来るのではないかと密かに期待しています。

私の前任の坂本先生が赴任されるまで串間は鹿児島大学の関連病院でした。そのため教室との関係が薄いところも有ったのですが、今回の新築移転に伴い、内容も一新されます。患者の紹介や大学での手術後の受け入れなど南の端っここらではありますが、帖佐教授、整形外科教室に貢献出来ればと考えています。

Q17. 名前ランキング：名前で多いのは？ 今お笑い界で人気のあのセリフ？



帖佐教授就任のお祝い および現状報告

野 辺 達 郎

この度は帖佐先生の教授ご就任、誠にめでたく、心よりお祝い申し上げます。今後更なる先生の御活躍をお祈り申し上げます。

さて当方が平成15年4月から勤務している古賀総合病院について簡単にご紹介致します。当院には小児科、脳外科、麻酔科を除く診療科を標榜している。病床は一般 250床、精神科 92床であり、整形外科病棟はなく空き部屋に入院して頂いている。水曜日の午前、金曜日の終日の手術日を除いて外来を行っている。

外来患者数は1日平均50人前後である。院内紹介で転移性骨腫瘍、また糖尿病、透析がらみの四肢壊疽などが比較的多いのが特徴的であ

ろうか。また、理学療法士が8名おり、スポーツ障害の患者も比較的多い。手術は1人体制にてできる範囲内にて細々としている。入院患者さんは合併症の多い高齢者が多く、他科の医師に協力頂くことも多い。病院敷地内にはデイサービスセンター、介護支援センターも併設している。

私ごとですが、本年6月末をもって退局することになりました。平成5年入局以来お世話になった先生方に深く感謝するとともに、大学医局をはじめ関連病院、同門の先生方には今後何かとお世話になると思います。何卒よろしくおねがい申し上げます。

A17.

7名	ひろし		4名	しょういち		3名	こういち
2名	あつし	おさむ	こういちろう	こうじ	しんじ	たかお	たかふみ
	たけし	ともみ	なおき	ひろあき	ひろのぶ	やすゆき	りゅうじ

・トップは7名で“ひろし”です（浩史・宏・洋史・弘・博志・寛）。次いで、しょういち4名・こういち3名の順で、全く同一漢字では正一が3名で最多でした。注目は男らしい松岡知己先生と女らしい崎濱智美先生のともみペア？



近況報告 (飢肥杉とカツオのタタキ)

益山松三

同門会の先生方ご無沙汰しています。昨年7月より百瀬病院でお世話になっています。早いものでもう9ヶ月が過ぎました。宮崎市郡医師会病院で1年6ヶ月研修させていただき、神菌先生の自称2番弟子?として外傷の患者さんについては、それなりに診れるようになったかなと自信のあるような無いような微妙な状態で診療にあたっていました。見事に打ち砕かれました。1人で様々な症例に直面する度に手術適応かどうか、自分で出来るのかどうか、いつもウダウダと悩みながら過ごしてきたように思えます。幸いに県立日南病院にはG仲間では3馬鹿トリオの一人である川野大先生がいらっしゃいますし、松岡先輩も中村先生も大きな?で優しく接して下さるので、急患の紹介など非常に心強く頼りにさせていただいています。また水曜日には前田先生に大学から来ていただき、週1回の手術を行っていますが、どういう訳か身体の大きい漁師さんなどの下肢の手術が多い傾向で、大学で過労死寸前(前田先生自己申告)の前田先生にはいつも脚持ちをしていただき、よけい疲れさせてしまっているのを申し訳なく思っています。

なんだか書いているうちに、いかにも仕事を頑張っていますという感じになってしまいましたが、嫁さんの目を盗んでは健康のため?山に出かけています。10月に次女が生まれたの

で、奥様へのムンテラはさらに厳しくなって、月1回は家族をどこかへ連れて行く事などという法律まで制定されてしまいました。初めは霧島や野尻などちょっとしたハイキングでしたが、最近は清武公園や花山手の公園でなんとか許してもらっている現状です。早めにこの法律が撤回されるのを願っている今日この頃です。

ゴルフといえば、南郷町にもやはり芝刈り中毒の人がおりまして、数人の方と仲良くなりました。なかでも片手シングルの居酒屋の大將からは毎週必ず21時頃呼び出しがありますが、子供の風呂入れなどで、松坂投手と飲む機会を3回もニアミスで逃してしまったのは今でも後悔しています。中村雅俊とは握手してもらいましたが、それ以来ゴルフの調子が悪いのは何か意味があるのでしょうか?最近、身内の体調の事でかるーくdepression気味ですから、この文章も(ヒロシです。)みたいな感じで暗くなってきましたが、普段は元気にやっています。

百瀬病院は歴代の赴任された先生方もご存知のように、理事長先生と院長先生の温かい心遣いのもと、僕のような若輩者でも大切にいただき、本当に感謝しております。医局の先生にもいろいろと迷惑をかけないように、これからも頑張っていきます。御指導御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

Q18. 当同門会の代表的氏名は? : No.16ならびNo.17の結果をふまえて……



病院紹介 社団牧会 小牧病院

田 辺 龍 樹

病院紹介致します前に、帖佐悦男先生の教授御就任誠におめでとうございます。今後はくれぐれもお体をご自愛下さり、宮崎大学医学部整形外科教室の益々の発展に力を注がれる事を祈念してやみません。

さて社団牧会小牧病院は都城市の東部に位置し、三股町との境に程近いところにあります。もうすぐ都城市と合併予定の近隣の北諸県郡の各町村とのアクセスもよく、鹿児島県の曾於郡とも広域農道を經由しさほど遠くない距離にあります。したがって患者様は都城市のみならず、それらの周辺町村からも来院されます。小生は平成16年7月より当病院に勤務いたしておりますが、病床数50床の整形外科主体の病院です。常勤医は整形外科が院長と小生、外科が1名、内科は非常勤で宮大の1内科および2内科より週1日ずつ、麻酔科はオペ日に週2日ずつきてもらっています。手術疾患別では骨折外傷がやはり一番多く、膝や股関節のOAや腰や肩の慢性疾患などの症例をこなしております。ただ、以前勤務しておりました病院と違い手術中の即断を自分ひとりではなければなら

いことも多々あり、冷や汗をかきつつ手術しております。しかしながら最近はそのような環境にもだんだん慣れてきつつあり、診断治療が1人よがりにならないように、自問自答をしている毎日です。平日の当直と土日の診察および当直では、教室の医局員の皆様にバックアップいただき、ご多忙中のおり誠に感謝いたしております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以下は当病院のあゆみです。

- | | | |
|-------|-----|---------------------|
| 1975年 | 5月 | 小牧整形外科医院を都城市年見町にて開院 |
| 1985年 | 9月 | 小牧病院として45床で開設 |
| 1986年 | 10月 | 50床へ増床 |
| 1987年 | 1月 | 救急指定病院 |
| 1989年 | 1月 | 医療法人 社団 牧会設立 |
| 1996年 | 4月 | はまゆう訪問看護ステーション併設 |
| 1998年 | 11月 | 老人保健施設はまゆう開設 |
| 2002年 | 10月 | 通所リハビリテーションこまき併設 |
| 2005年 | 3月 | 亜急性期病室併設 |

A18. ・“黒木ひろし”または“黒木正一”で決まり。ということで、今年4月より大学の講師に昇格されました黒木浩史先生には当同門会の看板を背負ってもらいますか？



帖佐先生、教授御就任おめでとうございます ～藤元早鈴病院の近況報告を兼ねて～

村上 恵美

帖佐先生、教授御就任おめでとうございます。先生が教授に就任されて早いものでもう1年が経とうとしていますが、相変わらずご多忙な毎日をご過ごされていることと存じます。

先生と初めてお話したのは、忘れもしない平成9年12月24日、学生最後のクリスマスイヴでした。彼（現、主人）とのディナーを楽しみにしていた私でしたが、帖佐先生、田島卓也先生の整形入局のアプローチに圧倒され、先生の愛車に同乗させていただき（半ば図書館裏で拉致されたような気もしますが…）、その後夜のニシタチで整形外科の楽しさや奥深さを嬉しそう（弾丸トーク）に語られていたことを昨日のこのように覚えています。その後も何度かお話をお伺いするうちに、おのずと整形外科の門をたたいていました。

入局して間もない頃、「手術所見は、自分でノートを作り、図と説明文を記入して、自分自身の手技書を作りなさい。」と先生よりアドバイスを受け、現在に至るまで実際に執刀させていただいたときには、諸先輩方のコメントや器械の使い方、展開方法など、教科書には載っていないようなアドバイスを書き込みながら、まだまだ先生のノートには及ばず、時にはサポートしてしまう事もありますが、自分なりの手技書を作成中です。また先生は日頃より、「自分がチャレンジしたいことは、まずやってみなさい。」とよく言われます。日常業務に追われ、なかなか自分の進路を決めかねていますが、先生の物事に対する俊敏な動き、学問に対する

貧欲さを目標に、色々とチャレンジできたらと思っております。

ところで現在私は、都城市の藤元早鈴病院に勤務させていただいていますが、昨年5月より当院へ園田典生先生が赴任され、スポーツ傷害を中心に、外傷、急性・慢性疾患など幅広く勉強させていただいています。ただ整形外科ベッド数が限られているため、転院などのご依頼に対応できないこともあり、ご迷惑をお掛けしていますが、他科のベッドをお借りし、時には他の階の病棟にまで進出しながら、どうにかやりくりをしている現状です。また昨年7月より当院に麻酔科医が常勤となり、急患の対応が可能となったため、手術件数も増え、非常にActiveな病院になりました。夏はACL、寒い冬は頸部骨折のシーズンが去り、少々もの寂しい現在ですが、こういう時期であってもいいな——と思いつつ、退院サマリーの整理をしている毎日です。

最後になりましたが、…沖縄の方言に“いちゃりばちよーでー”という私の好きな言葉があります。その意味は、“一度会ったら、皆兄弟のように仲良く、助け合おう”というものです。帖佐先生が父親（または長男）のような存在、先輩方がお兄さん、後輩が弟妹のようなものと勝手に解釈していますが、今後帖佐教授のもと、医局員一同一丸となって、臨床・研究に取り組める事を願っています。

帖佐先生、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



帖佐教授就任のお祝い および現況報告

田 島 卓 也

帖佐教授新体制が発足してからはや10ヶ月が過ぎました。あらためまして帖佐先生おめでとうございます。帖佐先生といえば私が研修医のころに、下肢班で毎週のように江夏先生とともに宿題を出されて必死で勉強していたころが思い出されます。笑顔でビシビシ叩かれるなど、温かくも厳しくご指導していただきました。現在は柏木輝行先生のご指導のもと、橘病院にて研鑽を積む毎日です。橘病院では一般整形外科、救急・外傷、スポーツ傷害を担当させていただいております。卒後3年目より4年間

大学院で研究をさせていただき臨床より離れておりましたので、橘病院では忙しくも充実した日々を送っております。また、帖佐教授、矢野良英院長、柏木先生のお許しを得て、平成13年度U-19ラグビー日本代表、平成14年度よりラグビー日本代表のチームドクターをさせていただきました。光栄なことに今年度も引き続き日本代表のドクターをさせていただいております。バイタリティ溢れる帖佐教授のご指導のもとに今後も通常の診療・手術とスポーツドクター活動に力を注いでいきたいと思っております。

Q&A19. 名字で使用されている漢字：名字に使われている漢字を集めてみました。

24名	田		11名	野		9名	木		
8名	川	本		7名	黒	村	山		
6名	松		5名	井	中	原	福	藤	吉

・のべ276字が使用され、最多は“田”の24名。次いで“野”が11名、“木”が9名、“川”と“本”が8名に使用されていました。皆さんは使われていますか？



やっぱりスポーツっていいもんだね！ (第7回同門会テニス大会報告記)

尾 田 朋 樹

平成16年11月23日（勤労感謝の日）、ぽかぽか陽気の中で第7回同門会テニス大会が開催されました。

私は第1回大会から参加させて頂いていますが、ゴルフだけでなくテニスもやろうよ！という一言で始まったこの大会も早いものでもう7年目を迎えました。豪華な賞品を鼻先にぶら下げられてこのときばかりは先輩、後輩は関係ありません。テニス歴、技術は各人様々ですが巧妙なルールのおかげで毎回僅差で順位が決まります。

太陽の光を一杯に浴びて気持ちいい汗をかき……最初はお互いがプライベートではほとんど初対面なのに不思議と自然体でいられる心地よさはスポーツならではの醍醐味でしょう！さりとは大会も後半になると各人体力の消耗とともに徐々に秘めたる本性があらわになってきま

す。でも決して不快感はありません、汗とともにすべてが流れ去ってしまうからです。後には心地よい疲労感と充実感が残るのみです。最後に記念撮影を行い近くのレストランで食事をしながら賞品授与となりますが、その際、不思議なことにテニス談義（ボレーがどうかサーブがどうかという話です）がほとんどないというところにこの会の楽しい時間の共有という趣旨が見え隠れします。今回は帖佐教授の参加というトピックスもあり一段と盛り上がった大会でした。（帖佐先生、本当にお疲れ様でした！）後日伝え聞いた話によると筋肉痛が数週間続くほど楽しかったと仰っておられたそうですので次回も是非お誘いしたいと考えています。

テニスは遊びでならやったことがある……という方は立派な経験者です。まずは体験参加から……御一緒にいかがですか？



平成16年度 同門会ゴルフコンペ報告

平 川 俊 一

平成16年度の同門会ゴルフ大会は11月21日に開催されました。会場は宮崎大学医学部のすぐ西側にあります宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部でした。このゴルフ場は何と言っても宮崎市街から車で15分程度、大学病院から数分のところにあり地理的条件が良いことがなによりです。ただしコースは池あり谷ありで十分に難しく、距離もたっぷりあります。メンバーが必ずしも有利と言うことはありません。

18名の強者が一年間の研鑽を發揮すべく、前夜の同門忘年会のお酒の量も控えめに集まりました。受付開始よりも早くゴルフ場に到着、スタート前の練習に励まれた先生もおられたようです。田島前教授、帖佐教授、市原(父)先生、戸田先生が第一組でスタートしていきました。私は第二組で渡辺(雄)先生、武

内先生と御一緒しました。今回は武内先生を徹底的にマークするように各方面から言われておりましたので、しっかりとフォローさせていただきました。

気になる成績の方ですが、やはり実力者が上位を占めました。

	グロス	ハンデ	ネット
優勝 益山先生	75	6.0	69.0
2位 河原先生	88	15.6	72.4
3位 森田先生	81	8.4	72.6

ベストグロ 益山先生75

ちなみにグロス100台の先生も6名おられましたので、腕に自信の無い方も安心して次回にご参加下さい。それからゴルフ担当の幹事も募集します。



平成16年度 日整会全国野球大会を終えて

一軍キャプテン

関本朝久

平成16年の日整会全国野球大会は5月20日から23日の日整会期間中に神戸ヤフーBBスタジアムを中心に開催されました。初の全国制覇を目指して例年通り2月より週2回、土曜早朝、日曜夕方の練習を開始しました。2月の朝練は満月の光が眩しかったです。昨年は14年ぶりにユニホームを替えました。私の考えたユニホームは長嶋ジャパンをモデルにしており、チームメイトからも相手チームからも好評を頂いたのはとてもうれしかったです。ところで昨年の大会は、それまでいつもチームを盛り上げてきて頂いた先生方が出場できず、12人で臨まなければなりませんでした。このような状況の中、キャプテンとしてチームをまとめる事ができるのか、大会前からとても気がかりでした。さらに昨年の練習は雨の日が多く、連携プレーなど十分にできない上に、練習試合も1試合しかできませんでした。このように昨年は例年になく不安を抱えたまま日整会野球大会を迎えることとなりました。

日整会野球大会は全国の8ブロックの代表の16大学によるトーナメント戦です。前夜祭では毎年懇親会と組み合わせ抽選会が行われます。昨年も各大学のかくし芸が催され、我がチームは三橋先生が会場を大爆笑の渦に巻き込んでくれました。その大爆笑の後で抽選会も行われました。ここまでは良かったのですが、なんと1回戦で、いきなり優勝候補の札幌医科大学と当たってしまいました。さすがに胃が痛くなってきました。しかしながら8回目の全国

大会で、我々は1回戦で止まるわけにはいきません。昨年の全国大会は、何としても全国大会制覇を目標に12人全員一丸となって臨みました。

1回戦：札幌医科大学（松岡・矢野-福嶋）
5-5（ジャンケン：5-4）

初戦で前年準優勝の札幌医大との対戦でした。この試合はチームにとって歴史的な試合となりました。私のデザインした新しいユニホームはグラウンドにとっても映えていました。この試合はいきなりエース松岡先生で臨みました。しかしながらホームランなどで徐々に引き離され、5回までに0-4とリードされてしまいました。少しチームのムードも沈んでいたのですが、ここで諦めるわけにはいきません。必ずチャンスが来ると信じて、まず1点を取る作戦で行きました。それが効を奏してか、終盤に連打が続き徐々に加点、最後には4番小園先生の逆転3塁打で5-4とリードしました。この時はキャプテンとしてすごく嬉しかったです。しかし最終回には相手の粘りにあい5-5の同点にされてしまいました。ルールにより9人によるジャンケンでの勝負となりました。またまたこのジャンケンも2-4と相手にリーチをかけられてしまい、今度こそは覚悟しましたが、そこから奇跡の3連勝でとうとう5-4で勝利しました。この勝利はチームにとっての歴史的な1勝です。すごく嬉しかったです。この札幌医大に勝てたことは、チームの今後につながる

信じています。しかしながら今大会は初戦で皆疲れ切ってしまったのかもしれませんが。

2回戦：名古屋市立大学（松岡・矢野-福嶋）

9-3

この試合はナイターで行われました。プロも試合をする立派な球場でした。この試合も初回に0-2とリードされる苦しい展開でしたが、こちらも徐々に追加点を挙げ5-3とリードして終盤を迎えました。しかし相手も連打で応戦してきて、この試合も矢野先生にリリーフしてもらいました。最終回によやく打線が爆発して9-3で勝利しましたが、終盤まで接戦だったために、チームの疲れはピークだった様な気がします。

準決勝：金沢大学（矢野・三橋-福嶋）2-5

準決勝は一昨年と同じ金沢大学でした。金沢大学は2試合とも楽な展開で勝ち上がってきていて、余裕が感じられました。私たちは満身創痍でした。この試合は矢野先生を先発にしました。すでに2試合登板していたので疲れがあったのかも知れません。試合も常にリードを許す展開でした。中盤で2-5とリードされてしまいました。三橋先生が中盤以降0点に抑えるナイスリリーフだったのですが、もう追いつける気が尽きていたのかもしれませんが。結局前年同様負けてしまいました。この試合は私自身が

焦ってしまい、簡単に動かしたことが敗因かもしれません。またエース松岡先生を使いすぎてしまったことも反省材料です。これは今後の課題です。

残念ながら今大会も全国制覇は成りませんでした。昨年同様ベスト4でしたが今後に向けての課題ができた大会でした。金沢大学は決勝戦15-0で岡山大を破り今年も優勝したようです。全国大会に負けた日の打ち上げの際に、悲願の全国制覇を期して私が来期もキャプテンをさせて頂くこととなりました。これまで田島教授、歴代キャプテン、そしてチームメイトが築き上げて来たすばらしい伝統を汚すことのないようまた精一杯ガンバッテいこうと決意しました。私のキャプテンとしての初めての全国大会で不慣れな点多々あり御迷惑をかけて申し訳ありませんでした。また皆私のサインに首を振ることなく従ってもらって本当にありがとうございました。

最後になりましたが、ただでさえ当直のやり繰りが大変なのに私達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、御協力に心より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教職員全員での勝利です。今後ともいろいろと御迷惑をおかけすると存じますが何とぞよろしく願い申し上げます。



平成16年度 西日本野球大会を終えて

一軍キャプテン

関本朝久

平成16年度5月に神戸で開催された全国大会は、順当に勝ち上がった準決勝で昨年同様金沢大学と対戦し、惜しくも2-5で破れました。残念ながら昨年も全国制覇は成りませんでした。その金沢大学は決勝戦15-0で岡山大学を破り優勝したようです。全国大会に負けた日の打ち上げの際に、悲願の全国制覇を期して私が今期もキャプテンをさせて頂くこととなりました。これまで田島教授、歴代キャプテン、そしてチームメイトが築き上げて来たすばらしい伝統を汚すことのないよう精一杯ガンバッテいこうと決意しました。全国大会の後、早速8月のこの大会に向けて、それまで通り週2回、土曜日早朝と日曜日夕方の練習を始めました。練習試合も今までにない4試合消化して大会に臨みました。しかしながら昨年は、研修会や当直などでなかなか人数が集まらない状態でした。そのような状況の中、キャプテンとしてチームをまとめる事ができるのか、大会前からとても気がかりでした。私はこの不安の中、いつも通り過去数年のチーム全員のデータ解析、メンバー交代のパターンやサインなどを考えることで気を紛らしていました。

全国大会出場の出場権を賭けた西日本野球大会は、平成16年8月8日、真夏の炎天下の中、長崎市ビッグNスタジアムを中心に開催されました。この大会は九州・山口地区の12大学のトーナメント方式で行われ、決勝戦に勝ち上がった上位2チームが翌年の全国大会の出場権を獲得できます。私が入局した平成4年以降、

8回全国大会に出場している我々はここで止まるわけにはいきません。前夜祭では毎年懇親会と組み合わせ抽選会が行われます。私は毎回くじ運は良くないのですが、昨年は強豪の琉球大学、九州大学と別のブロックに分かれた上に、プロ野球公式戦も行われるビックNスタジアムで、勝ち上がっても球場の移動なく試合をすることができました。各試合後は冷房の効いたロッカールームで休憩することもできました。私はこのくじを引き当てたことは密かに自分のファインプレーとっていました。昨年の西日本大会では最低でも全国大会の出場権を目標に、そして来られなかった先生方の分を皆で少しずつカバーするつもりで12人全員一丸となって臨みました。

1回戦：産業医科大学(松岡・三橋-福嶋)8-4

今大会は久しぶりに4番松元先生に帰っていただき、良い雰囲気です試合に臨むことができました。初回、2回と相手のエラーにつけ込んで3点リードしました。しかしながら3回表、一気に4点取られ逆転されました。嫌なムードになったのですが、ここでエース松岡先生が踏ん張ってくれました。流れが向こうに行かないうちに4回、5回と追加点を挙げ、結局8-4でした。油断大敵です。でもこの試合のお陰でチームが引き締まりました。

2回戦：鹿児島大学(松岡・三橋-福嶋)7-0

初回相手ピッチャーの乱調でノーアウト満塁と攻めたのですが、私がスクイズを出さずに結局1点しか取れず、嫌なムードになっていたのですが、徐々に加点し、結局7-0のコールドゲームでした。

準決勝：福岡大学(矢野-福嶋)4-1

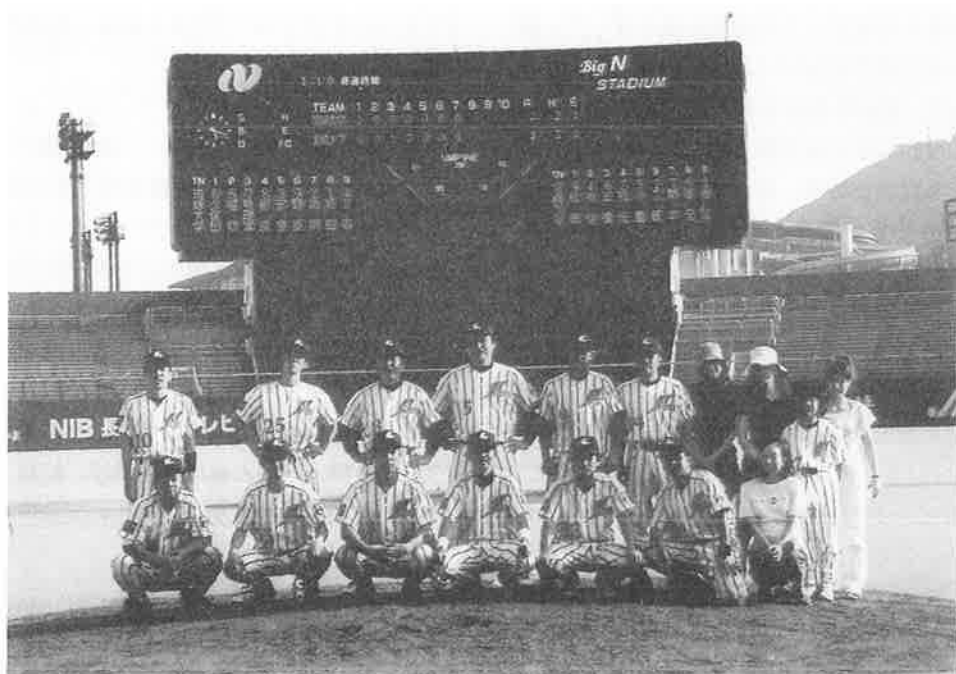
ここで勝てば全国の切符です。準決勝は5回戦なので先取点が重要です。しかし炎天下の中、皆疲れが出てきました。この試合は0-0で膠着していた中、中盤相手に先取点をとられました。三橋先生の好走塁ですぐに同点に追いついたのですが、なかなか追加点が取れませんでした。最終回表2アウト2塁ここで0点ならば、判定戦に持ち込まなければ勝ちはない状況で、相手のエラー絡みでようやく追加点、さらに福嶋先生の長打で引き離して、何とか4-1で勝ちました。

これで来年の全国大会の切符を手にすることができました。私はこの時点で最低限の責任が果たせて、心の底からホッとしました。

決勝：琉球大学(池尻-福嶋・工藤)1-2

夕方になり少し涼しい風が吹いてきたのですが、もう皆クタクタでした。この試合は昨年の決勝戦ですばらしい投球をした池尻先生を先発にしました。福嶋先生はもう翌日の仕事に支障を来しそうでしたのでキャッチャーは途中から工藤先生にお願いしました。過酷なコンディションの中、久しぶりのキャッチャーをしてもらってとても感謝しております。池尻先生を盛り上げるナイスリードでした。池尻先生は初回の2安打のみのナイスピッチングでした。こちらの失点はエラー絡みでした。これは今後の課題です。結局試合は1-2の惜敗でしたが、全国大会出場権獲得という最高の仕事のできたので、皆大変満足でした。打ち上げでビールのは忘れられません。

以上の様に結果は準優勝でした。お陰様で何とか12人の全員野球で今年の全国大会の切符を手にすることができました。真夏の長崎の炎天下の中、1日4試合は本当にきつかったです。



その上、私の作業ミスも多々あり迷惑をかけて申し訳ありませんでした。それなのに皆私のサインに首を振ることなく従ってもらって本当にありがとうございました。本当にご苦労様でした。これからも私自身もっと野球を勉強します。チームのキャプテンを勤めて2年目なのですが、これまでの田島教授、歴代キャプテンの気苦労を改めて痛感した次第でした。また猛暑の中応援していただいた先生、看護婦さん、コメディカルの方々、宿泊、交通、飲料水準備など、私たちが試合に集中できるように数多くの雑用をしていただいた温水さん、公文先生、本当にありがとうございました。そして何よりも、ただでさえ当直のやり練りが大変なのに私

達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、ご協力に心より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教室員全員での勝利です。今後ともいろいろと御迷惑をおかけすると存じますが何とぞよろしくお願い申し上げます。

今年の全国大会はいよいよ5月に横浜で開催されます。いつものように現在週2回の練習を行っています。そういえば昨年の本番のシートノックのキャッチャーフライは、あれだけ練習したのに成功することができませんでした。今年こそ初の全国制覇が果たせるようチーム一丸となってガンバッテいこうと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



Q&A20. 名前で使用されている漢字：次いで、名前に使われている漢字を集めてみました。

21名	一		14名	郎					
6名	浩	博	司	史		5名	二	典	美
4名	宏	康	行	勝	信	男	洋	正	

・のべ271字が使用され、最多は“一”の21名。次いで“郎”が14名、“浩”・“博”・“司”・“史”が6名に使用されていました。因みに算用数字では“一”が21、“二”が5名、“三”・“四”が1名ずつで、意外にそれ以上は存在しませんでした。



第47回西日本整形外科 親善野球大会の二軍優勝への道

二軍キャプテン

公文崇詞

今回二軍キャプテンという大役をおおせつかり平成16年8月8日に長崎で開催された第47回西日本整形外科親善野球大会に参加させて頂いた。大会直前のキャンセルもあり、結局少数精鋭の13名で試合に臨んだ。その時点で誰が後に起こる感動的な勝利を予測できただろう。

大会前日の組み合わせ抽選会で、みごと1回戦不戦勝で決勝まで会場移動のない枠を引き当て、キャプテンとしての第1の仕事を果たしました。自分でいうのもなんですが、今思うとこの抽選が全てとは言わないが……いや全てであったのではなかろうか？

大会当日の我軍のメンバーを改めて見てみると、私が入局した当初と比べほとんど変化のない、つまり高齢化が進んだ、良く言うと燻し銀のチーム、はっきり言うと体力的に非常にきびしい、沈みかけた船のようなチームにしか見えなかった。

初戦は強豪の琉球大学であった。当然、我軍は不屈のエース：柳園と、日南の耐え忍ぶ大いなる壁：松岡知己のバッテリーで臨んだ。柳園の好投と、園田・黒木隆男・江夏・柳園・山口の上位打線と小島・野中・船元・帖佐の下位打線が見事に噛み合い、適時打の嵐で予想以外の10対1と大勝した。しかしこの試合で霧島の太砲：江夏が負傷してしまい、チームの主砲を失ったことで次からの暗雲がたち込めた。

第2戦(準決勝)は福岡大学であった。江夏の負傷欠場がひびき打線爆発とはいかなかったが山口の好打で3対2とせり勝った。この時点で幸

か不幸かほとんどの選手が出場機会に恵まれ、炎天下でのプレーで疲労困憊の状態であった。

決勝はホームの長崎大学であった。黒木隆男が都合によりこの大一番を前に戦線離脱となり、指揮官の私と負傷の江夏を除く全てのメンバーが先発出場しなければならないという文字通り総力戦となった。決勝のメンバーは、1番はセンター：怒れるスポーツの獅子一園田一、2番レフト：静かなるWaverider一船元一、3番セカンド：昼はカーン、夜は……一小島一、4番ピッチャー：永遠の野球少年一柳園一、5番ショート：高鍋の超特急一山口政一郎一、6番ライト：密かにサッカー少年一野中一、7番サード：ご存知Professor一帖佐一、8番ファースト：お腹の気になる元Surfer一渡邊信二一、9番DH：背骨のジョンイル先生一後藤啓輔一、キャッチャー：大いなる壁一松岡知己一であった。選手全員が死力を尽くし、打ち、そして守り、最終回同点の危機に、我軍炎のストッパー山口の球は打てないと踏んだ相手の一か八のホームスチールを阻止し感動のゲームセット。優勝の瞬間、沈みかけた船としか見えなかった我軍がイスカandalへ飛び立つ宇宙戦艦ヤマトの姿とだぶり、3対2の電光掲示板の文字は涙で霞んだ。

以上お忙しい中参加して頂いた先生方に感謝しつつ、暑い熱い夏の日の出来事の報告を終わらせて頂きます。

(なお、試合の臨場感を演出するため敬称略とさせていただきます。お許し下さい。)

Q21. 当同門会の代表的氏名2は？：No.19ならびNo.20の結果をふまえて……



A21. ・“田野一郎”または“野田一郎”で決まり。ということで、医学生にその名前を見つけたら当同門会に入会してもらいますか!?



日本整形外科学術集会サッカー大会 南九州ブロック予選会

サッカー部主将

山本 恵太郎

平成17年5月に横浜で開催される日本整形外科学術集会で野球と同様に親善大会としてサッカー大会も行われる事が正式に決まりました。そこで、本大会への出場権をかけ、16年11月28日に沖縄県宜野湾市（西日本整形・災害外科学会の翌日）で琉球大学・鹿児島大学と南九州ブロック予選会が行われました。

ルールは8人制・ハーフコート・20分ハーフ制・年齢制限（30歳以上が4人、そのうち最低40歳以上が1人、女性選手は40歳以上扱い）・フリー交代制などの特別ルールの基に行われました（本来のサッカーとは若干別物のようでしたが）。

予選会は3チーム巴戦（1位チームのみ本大会へ）。前日の抽選会で1/6の最悪の組み合わせを自分が引いてしまった時点で勝負は決っていたのかもしれませんが（1試合目鹿児島vs宮崎、2試合目琉球vs宮崎、3試合目鹿児島vs琉球）。結果は、

- ①宮崎4-0鹿児島（得点）樋口2、園田、森
- ②琉球4-1宮崎（得点）樋口
- ③琉球3-1鹿児島

ウチは1勝1敗の2位で、出場権は琉球大学が獲得しました。非常に残念で応援して頂いた皆様には大変申し訳ありませんでした。琉球戦は激しい試合になりケガ人が続出して残念な結

果でした。帖佐教授もサッカー競技歴を有しておられ、参加に意欲的でしたが日程の都合がつかず出場されなかった事もチームの士気に影響を与えました。ただ、言い訳を少し。2試合連続vs初戦フレッシュ、少人数（11）vs多人数（約20）、スタメン平均年齢約35歳vs約30歳、アウェーvsホーム、前半からのけが人続出などなど……。でもやはり一番の敗因は自分の引き弱でした。（引き強のS先輩に引いてもらえば良かった。Sonoda先輩は今回も旅行したのに財布の福沢諭吉は増えてましたから。凄いい）。ケガ人も出し本当に申し訳ございませんでした。

ただ、琉球大はホントに強かったです。若くて速くて上手かったです。全国でも良い結果を残せると思います。来年以降も予選会が行われれば、鹿児島大も恐らく巻き返してきて難しい相手になるでしょうが、鹿児島大に勝ち、琉球大にリベンジをして、野球同様全国の檜舞台に立ちたいと思います。

今回は、

40歳代：

園田先生、樋口先生、（女医）小松先生

30歳代：

野中先生、山本、大倉先生、森先生、公文先生

Q&A22. 名前で使用されている漢字女性陣では：当同門会には8名の女医さんが入会しています。“美”が3名、“子”が2名と名は体を表すでピッタリです。

20歳代：

吉川大輔先生、三橋先生、小島先生

の計11名で頑張ってきました。特に、小学時代以来のサッカーという公文先生（自称：新居浜のマラドーナ：どっちかというと体型がそっくり？でスタミナ不足も、華麗なテクニックにチームメイトが驚く）、野球部の三橋先生・ラグビー部の吉川先生、なでしこジャパンのドクターで3チームの紅一点であった小松先生（トラップとかホント上手）らの活躍は目を

引きました。また、応援に来てくれた猪俣先生ありがとうございました。

今回は日程が急遽決まったため参加したかった先生方にはアナウンスが行き届かず申し訳ございませんでした。次回参加希望の先生がいらっしゃいましたらご一報ください。

皆様の参加ならび今後とも宮崎大学医学部整形外科サッカー部へのご支援のほど宜しくお願い致します。



Q23. “■いちろう” VS “■太郎” VS “■一” で一番多いのは？

厚生課（第2期厚生係）報告

— 医局旅行 + α —

厚生課課長

山本 恵太郎

前年度同門会誌で末尾に書いた願いも叶わず、2期目の“厚生係＝宴会丸”委員長を仰せつかりました。前任者の矢野名誉艦長に倣い2期目は厚生課として船出致しました。

平成16年は講座教授に帖佐先生が昇任された記念すべき年になりましたので、厚生課もここが見せ場とばかりに奮起し、今年度の医局旅行はついに海外進出となりました。

“チョン様と行く韓流ツアー”とヨン様チームに負けないキャッチフレーズを銘打ち（またまた何時決まったかは不詳ですが）、ドクター17名、夫婦1組、看護師さんは昨年を上回る12名、OTの黒木美妃先生、日系ブラジル人の留学生ピアンカさんや大学院生の眞鍋さんも来てくださり総勢33名のチョン様＋同行御一行とあいなりました（今回は流石に子供の参加はありませんでした）。……、さて10月22日～24日宮崎空港発着のアシアナ航空便による2泊3日の韓流ツアーや如何に？

初日は夜着で、3日目は昼発のため、実質2泊1日ちょっとでしたが、景福宮・国立民俗博物館などの市内観光や南大門市場・免税店でのショッピング、食事は必ずキムチ付き＋激辛と

異文化を体感して楽しむことができました。

以下にちょっとしたエピソードを羅列します。

・ホテルはスーペリアクラスで、韓国の芸能人達もよく利用する欧州風のモダンなインテリアを有したホテルAMIGA（グッドなホテル）でした。ただ、外観を重んじるみたい（というか欧州風のモダンな所以でしょう）が、トイレットペーパーが日本みたいに張り出しておらず、洗面台の下に隠れるように設置され、それに気が付かなかった某看護師さんが他の部屋にトイレットペーパーを探しに出て大騒ぎになりました。

（教訓）トイレットペーパーはトイレの傍に必ずあり。

・夜は、韓国名物の垢擦りに数名が行きました。が、女性陣はほぼ満足も、男性陣はごつつい野郎にマッサージされたうえ、オプションをどんどんと要求されかなりぼったくられた感じで、研修医のM橋先生は「頭皮マッサージを頼んだら、チョンチョンとされただけ。やられた～！」とみんなに自慢？していました。

（教訓）オプション追加は慎重に。

A23.	■一	■一郎	■史	■司	■二	■男	■行	■美	■郎
	12	6	6	6	5	4	4	4	4

■一が最多の12名。■いちろうは9名（■一郎は6名）、■太郎は意外に少なく3名。その他では、■司・■史が6名。■一の内訳は正一・3・宏一・俊一・潤一・洋一・浩一・裕一・祥一・英一の各先生達でした。

・また、研修医のM橋先生はブランドまがいの高級腕時計を購入しみんなに自慢していましたが、ものの1時間でバンドが破損。やはりここでも「やられた～！」を連発していました。

(教訓) まがい物はやはりまがい物。

・帰りの仁川空港に向かう途中に、わざわざ金浦空港近くのキムチ屋さんに寄り、お土産のキムチを勧められてみんなたくさん買っていましたが、実際は同じ製品が空港にも置いてあり値段も安かったです。このお土産屋さんはツアーに組み込まれており韓国の商売上手というか、商売魂の凄さに感心しました。ここでは、多方面から「やられた～！」という声か。

(教訓) お土産(キムチやノリ)は空港で買ったも十分。

・カジノ(ウォーカーヒルホテル)に2晩とも通った輩もいましたが、何万単位でかけている常連客に圧倒されたみたいで、「頑張って働いて金を持ってリベンジ」と妙な仕事意欲を掻き立てていました。ただ、ビギナーズブラックでスロット勝ちした看護師さんは一人ハシャギまくっていました。

(教訓) ギャンブルは大金持ちとビギナーの勝ち。

・韓国に行くなら何と言ってもお薦めはNANTAでした。厨房の道具を楽器にして伝統的な音楽にストーリーを加えた音とリズムのミュージカルなのですが、ホントに面白くて楽しくて、今後韓国に行かれるのなら絶対お薦めです。ただ後から行きたいと言ったが予約満杯で弾き出された研修医のM橋先生はまたまた「やられた～！」と後悔(こればっかし)。だから、旅行前よりお薦めと言ったのに。素直にお薦めを受け入れましょう。あれ、ちょっとお土産の話とは矛盾??

(教訓) 何事も経験です。

こう書いていると何をしに韓国に行ったのかとの声が聞こえてきそうですが、いろいろなエピソードから笑いの輪が拡がり次への団結の和が深まった気がします。ただ、何はともあれ、無事に帰ってきました。あまりエピソード欄に教授の話が無くて愛読者の方々には大変申し訳ございませんでした。ホントにこの旅行ではしっかりされていました。宴会が無かったから



ちょっとした同門会員の統計的小話を掲載致しました。楽しんで頂けましたでしょうか？
皆様自身はいくつランクインしていましたか？
続きはあるかどうか不明ですが、その時のためにネタの提供を待っています。
では、次回を乞うご期待ください。(終)

かな??ただ、バスの中ではずう～～と新人看護師さんと話しておられ、教授もこの旅行を大変喜んで頂けたとの事でした。

因みに、25名以上の団体が宮崎発着のアジア航空を使うと県から助成金が20万円（10～24名は5万円）出ます。宮崎の観光を盛り上げるといふ点から是非一度ご利用ください（自分は決して県の回し者ではありません。あしからず）。

今後も医局旅行中は他施設の先生方にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、来年以降も楽しい医局旅行が続けばと切に願う次第です。

毎年楽しい医局旅行を計画します。参加されたい先生方は是非大学に戻ってきてください。

それでは、皆様にとって2005年も良い年に

なりますようお祈りして2004年医局旅行の報告を終わります。

追伸：昨年の忘年会も病棟・歯科口腔外科・リハビリテーション科のスタッフが50人も集まり大変盛り上がりました。絶対50人は入らないだろうというような狭い店でしたが、歯科口腔外科も迫田先生が12月に教授に就任され帖佐教授共々お祝いをし、また一足遅いクリスマスプレゼント交換会や自称サンタロウ幹事からのキャッシュバックじゃんけん大会など楽しい年の瀬を過ごし、今年への鋭気を養いました。また、今後とも厚生係をよろしくお願い致します。



新入会員紹介(賛助会員)



同門会入会にあたって

高見整形外科クリニック 高見 博 昭

こんにちは。この度、宮崎大学医学部整形外科同門会に入会させて頂くことになりました、高見博昭です。延岡市で高見整形外科クリニックを開業して3年半となります。

経歴は、大分医科大学の一期卒業生で、帖佐教授とは同期生になります。学生時代6年間一緒にいたから、お互いのことはよく知っています。(……まじめで、世話好きの学生でした。それ以上の話は個人的に……)

卒業後のことを少し述べさせていただきます。私は卒業後すぐに大分医科大学整形外科教室に入り、医局に15年間在籍しました。その間、真角教授、鳥巢助教授、麻生講師に師事し、リウマチやそれに伴う各種人工関節、および手の外科を中心に学びました。脊椎は県北の山香町立病院に医長として勤務の折必要に迫られて、脊椎の専門家をスーパーバイザーとして招き、学びました。また卒後3年目に1年間勤務した別府整肢園(現別府発達医療センター)での研修は、小児整形外科の経験として大きなものがありました。

延岡に帰省して、共立病院に1年半程お世話になり、その後開業し3年半経ちましたが、その間少しずつ延岡の医療の状況が見えてきました。医療機関どうしの認識のずれや行政との連携の不備、あるいは、あるべき医療に対する方向性やコンセンサスの欠如など。その問題に県立延岡病院がようやく重い腰を上げて本格的に取り組もうとしています。また延岡医師会も日向医師会も共に、小児救急など県北の医療の問題に正面から取り組みつつあります。それらは必要で歓迎すべきことです。そしてさらに一歩進めて考えると宮崎県全体の医療にとっての連携や、牽引力となる組織の存在が必要なのではないでしょうか。宮崎大学の各医局が、その役目を果たすべきであり、逆に言えば、そこにこそ、宮崎大学の存在意義のひとつがあるのだらうと思います。私も県北の医療従事者のひとりとして、その役の一端を果たせればと考えて同窓会に入会させて頂くことにしました。どうぞよろしくお願い致します。

平成17年3月7日

仲春の候



ごあいさつ

大崎整形外科 大崎 泰

生年月日 昭和 34 年 4 月 18 日 45 歳

勤 務 医療法人芳清会 大崎整形外科

延岡市大門町 215-1

TEL 0982-32-3331

趣 味 ゴルフ

略歴：宮崎南高校卒。昭和 60 年 3 月自治医大卒業。同年 6 月から平成 7 年 11 月までの間に県立宮崎病院にて整形外科トレーニングを計 4 年半受け、その間西郷村、西米良村、椎葉村、東郷町の国保病院に計 6 年間勤務。自治医大義務終了後の平成 8 年 1 月より鹿児島市貴島整形外科にて関節外科、特に鏡視下手術を学び、平成 11 年 7 月郷里延岡市にて開業。

ご挨拶：開業して 5 年の節目を迎え、これを機に昨年 11 月、同門会に賛助会員として入会させていただきました。専門は関節外科で、膝・肩・肘等を中心とした腰麻、全麻下の手術を年間 100 例程行ってきました。

開業した延岡は中 3 の秋までの少年時代を過ごした生まれ故郷です。巨人の王、長嶋に憧れて少年野球に没頭しましたが小 6 の秋に右肘を壊して野球は断念。中学からはミュンヘンへの道の影響を受け、大古、横田を目指してバレー部に入部。大学 6 年まで続けました。現在はスコアは二の次のストレス発散ゴルフを月 2～3 回楽しんでいます。

開業医にとって一番大切なことは言わずもがな健康な肉体の維持です。これまでの 5 年間、一日も休むことなく診療を続けてこれたことは偏にこのタフな体を与えてくれた両親のお陰だと感謝するばかりです。ただこのことに慢心することなく更なる自己管理に勤め、微力ながら地域医療の発展に貢献したいと考えています。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



ごあいさつ

河合整形外科クリニック 河合 淳

この度、入会させて頂きました河合です。

出身は、竹久夢二、橋本龍太郎、星野仙一、石井十次（宮崎出身）で有名？な、岡山です。5年前に宮崎市芳士に、河合整形外科クリニックを開院しました。

小学校でソフトボール少年団に入部し、中学で軟式テニス、高校で野球、大学でサッカーと体育会系で育ってきました。

整形外科は、数ある科の中で、特に体育会系の色が濃い科かと思われませんが、開業してからは、周りは女性ばかりでなかなか体育会系ののりでは、運営は難しいと痛感させられる毎日です。

また、運動量が極端に減り、年々体形が崩れて来た為、本年3月から片道30分の自転車通勤を続けており、宮崎の夏を越せるかどうかポイントと思っています。まずは、現在の目標をBMI 25としております。

最後に、微力ながらの地域医療に貢献できるよう職員共々一生懸命頑張りますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。





ごあいさつ

こぞくら整形外科 小 櫻 博 幸

この度、同門会に賛助会員として入門を認めて頂き、心より御礼申し上げます。私は、1958年3月福岡市で生まれ、福岡県立筑紫丘高校から鹿児島大学に進み、1982年6月に鹿大整形外科に入局しました。酒匂教授からは、脊椎外科一般を、解剖学の鹿大・村田教授と、宮大・菅沼教授からは、関節軟骨の電顕組織化学を御指導いただきました。

1993年から、鹿児島市の貴島整形外科で、関節外科、特に鏡視下手術と術後早期リハビリを、年間400例以上経験させていただきました。

1999年11月から、義父の出身地である、国富町六日町に、無床の理学療法Ⅱの施設基準を持つ整形外科クリニックを開院し、現在に至っています。大学の際は臨床と基礎を、現在は医療と介護を、どう融合させたらいいのかを、考えすぎています。ご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



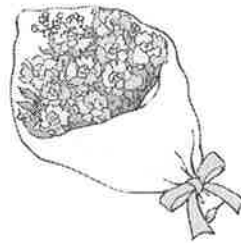
新入会員自己紹介 (正会員)



氏 名 弓 削 孝 雄
生年月日 昭和 18 年 7 月 24 日
出身高校 宮崎大宮高等学校
出身大学 鹿児島大学
血液型 B 型

この度、帖佐教授の御配慮により、H. 17. 1 月から整形外科に入局し、27 年余り勤務した県立延岡病院を 6 月で辞し、7 月より宮崎市内の病院に勤務する事になりました。ようやく自分の育った宮崎市に帰る事になり、いろいろ複雑な思いです。もうすぐ 62 才になりますし、余り大した仕事もできないと思いますが、体力には少しは自信がありますので頑張っていくつもりです。いろいろな所で皆様の御支援を仰ぐ事になろうかと思えます。

尚、趣味は多く、現在は週に 4～5 回はランニングで汗を流しています。他に登山、テニス（2 年前に少し膝を痛めて休止中） e t c です。なにとぞ宜しくお願い致します。



教室同門の研究業績

(2003. 1月～12月まで)

◆原 著

- 1) Biomechanical evaluation of cervical double-door laminoplasty using hydroxyapatite spacer
Kubo S, Goel VK, Yang SJ, Tajima N
Spine, 28(3) : 227-234, 2003.
- 2) 関節リウマチ (RA) 患者に対する鎮痛薬ナブメトンの効果的な投与方法
高村徳人, 帖佐悦男, 奥村 学, 横田 崇, 藤田健一, 日高宗明
緒方賢次, 山崎啓之, 徳永 仁, 津田聖一, 川井恵一, 有森和彦
医薬ジャーナル, 39(3) : 1041-1046, 2003.
- 3) セメントレスAML型THAの5年以上の臨床成績
西里徳重, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 田口 学, 公文崇詞
山田正寿
整形外科と災害外科, 52(1) : 39-42, 2003.
- 4) 宮崎県高校野球選手に対する傷害調査
大倉俊之, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 帖佐悦男
田島直也
整形外科と災害外科, 52(2) : 287-289, 2003.
- 5) Expression of adrenomedullin and its receptor by chondrocyte phenotype cells
Chosa E, Hamada H, Kitamura K, Kuwasako K, Yanagita T
Eto T, Tajima N
Biochem Biophys Res Commun, 303(1) : 379-386, 2003.
- 6) Comparative biomechanical analysis of a cervical cage made of an unsintered hydroxyapatite particle and poly-L-lactide composite in a cadaver model
Totoribe K, Matsumoto M, Goel VK, Yang SJ, Tajima N
Shikinami Y
Spine, 28(10) : 1010-1015, 2003.

- 7) Evaluation of Human lactate Dehydrogenase as a Serum Marker for Exercise-induced Muscle Damage
Chosa E, Sekimoto T, Sonoda N, Yamamoto K, Matsuda H
Takahama K, Tajima N
Clin J Sport Med, 13(4) : 209-212, 2003.
- 8) Biomechanical analysis for stress fractures of the anterior middle third of the tibia
in athletes: nonlinear analysis using a three-dimensional finite element method
Sonoda N, Chosa E, Totoribe K, Tajima N
J Orthop Sci, 8(4) : 505-513, 2003.
- 9) Effects of lumbar spinal fusion on the other lumbar intervertebral levels
(three-dimensional finite element analysis)
Goto K, Tajima N, Chosa E, Totoribe K, Kubo S, Kuroki H, Arai T
J Orthop Sci, 8(4) : 577-584, 2003.
- 10) 内側半月板変性断裂に対する鏡視下半月板脛骨側部分切除術の成績
石田康行, 山口和博, 麻生英一郎
関節鏡, 28(1) : 83-86, 2003.
- 11) Anterior acetabular head index of the hip on false-profile views.
New index of anterior acetabular cover
Chosa E, Tajima N
J Bone Joint Surg Br, 85(6) : 826-829, 2003.
- 12) 腱板修復術後の結節間溝の形態変化について
白地 仁, 柴田陽三, 熊野貴史, 篠田 毅, 緑川孝二, 本荘憲昭
内藤正俊
整形外科と災害外科, 52(3) : 499-503, 2003.
- 13) 高齢者頸部脊髓症に対する脊柱管拡大術の検討
相良孝昭, 赤崎幸二, 木村 真, 福本 巧, 河野淑彦, 桑原公倫
松下任彦, 武内晴明
整形外科と災害外科, 52(3) : 594-597, 2003.
- 14) 進行期股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の成績
福本 巧, 赤崎幸二, 相良孝昭, 木村 真, 河野淑彦, 桑原公倫
松下任彦, 武内晴明
整形外科と災害外科, 52(3) : 678-680, 2003.

- 15) 術後10年以上経過したbipolar型人工骨頭置換術の臨床成績
山田正寿, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 公文崇詞
大宮博史
整形外科と災害外科, 52(3): 681-684, 2003.
- 16) 足関節固定術の臨床成績
木村 真, 赤崎幸二, 相良孝昭, 福本 巧, 河野淑彦, 桑原公倫
松下任彦, 武内晴明
整形外科と災害外科, 52(4): 777-780, 2003.
- 17) 股関節の手術的脱臼法の経験
帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治
Hip Joint, 29: 232-235, 2003.
- 18) MX-1人工股関節におけるUHMWPE磨耗の検討
黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 田島直也, 安田舜一
Hip Joint, 29: 453-456, 2003.
- 19) Posterior releasing techniques for idiopathic scoliosis:microscopic discectomy and
transverse process resection :a technical note
Kubo S, Tajima N, Chosa E, Kuroki H, Goto K
J Spinal Disord Tech, 16(6): 528-533, 2003.
- 20) Increased plasma and joint tissue adrenomedullin concentrations in patients with rheumatoid
arthritis compared to those with osteoarthritis
Chosa E, Hamada H, Kitamura K, Eto T, Tajima N
J Rheumatol, 30(12): 2553-2556, 2003.
- 21) Biomechanics of spinal deformity in inflammatory disease
Hiroshi Kurki, Scott Holekamp, Vijay K.Goel, Manohar M.Panjabi
Nabil A.Ebraheim, Kevin P.Singer
Inflammatory disease of the spine(1st ed): 1-20, 2003.
- 22) TKAにおける骨移植の脛骨コンポーネントの安定性に及ぼす影響 有限要素法を用いて
鳥取部光司, 帖佐悦男, 園田典生, 後藤啓輔, 田島直也
日本臨床バイオメカニクス学会誌, 24: 299-303, 2003.

◆症例報告

1) 感染人工膝関節を抜去し再置換しなかった2例

公文崇詞, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 田口 学, 西里徳重
山田正寿
整形外科と災害外科, 52(1): 206-209, 2003.

2) ケトプロフェン湿布剤により喘息重責発作を来した1例

浪平辰州, 坂田勝美
整形外科と災害外科, 52(2): 302-304, 2003.

3) 幼児外傷性股関節脱臼の一例

財津泰久, 甲斐睦章, 海田博志
整形外科と災害外科, 52(4): 825-827, 2003.

4) 糖尿病性筋梗塞の1例

永吉洋次, 岩切清文
整形外科, 54(11): 1439-1441, 2003.

その他

1) [脊椎疾患へのアプローチ] 脊柱管狭窄症の診断と治療

後藤啓輔, 久保紳一郎, 田島直也
リウマチ科, 29(2): 157-163, 2003.

2) スポーツメディカルチェック 異常と許容範囲 整形外科の立場から

田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 渡邊信二, 山本恵太郎
日本臨床スポーツ医学会誌, 11(1): 10-18, 2003.

3) [脊椎疾患による痛み] 腰部変性疾患の手術療法

黒木浩史, 田島直也
痛みと臨床, 3(2): 144-153, 2003.

4) [腰痛?外来診療の全て] ライフスタイルの改善

田島直也
臨床と研究, 80(3): 449-452, 2003.

- 5) 序 脊椎脊髓病学最近の進歩—第31回日本脊椎脊髓病学会より—
田島直也
臨床整形外科, 38(4) : 374-375, 2003.
- 6) 画像診断ワークショップ 頸椎
久保紳一郎
関節外科, 22(5) : 625-628, 2003.
- 7) [筋・筋膜性疼痛の病態と治療] 筋・筋膜性腰痛について
帖佐悦男, 田島直也
ペインクリニック, 24(6) : 783-788, 2003.
- 8) [Hip-Spine Syndrome] Hip-Spine Syndromeの定義と分類の問題点
帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治
整形・災害外科, 46(8) : 917-925, 2003.
- 9) 脊椎のバイオメカニクス研究の現在と展望
田島直也, 久保紳一郎
脊椎脊髓ジャーナル, 16(7) : 795-799, 2003.
- 10) [必見 腰痛学] 診断 スポーツによる腰痛診断
田島直也, 帖佐悦男
骨・関節・靭帯, 16(8) : 905-913, 2003.
- 11) [運動器のスポーツ外傷・障害] 腰のスポーツ外傷・障害に対する診療
田島直也, 帖佐悦男
日本医師会雑誌, 130(3) : 425-427, 2003
- 12) [頸髄症神経根症の保存療法のコツとpitfall] ブロック療法
久保紳一郎, 田島直也
Orthopaedics, 16(8) : 42-49, 2003.
- 13) 巻頭言
田島直也
日本義肢協会誌, 56 : 1, 2003.

◆学会報告

- 1) 脳性麻痺患者における下肢手術評価 脳性麻痺手術のための臨床評価法を用いて
柳園賜一郎, 舩元太郎, 山口和正
第19回九州小児整形外科集談会, 2003, 1, 福岡.
- 2) 手の外科におけるAcutrak screwの使用経験
井上 篤, 黒木龍二, 園田典生, 矢野浩明, 山本恵太郎
田島直也, 河野雅行
第24回九州手の外科研究会, 2003, 2, 宮崎.
- 3) 弾発指を合併した手根管症候群の検討
原田香苗, 中島英親, 寺本憲市郎, 長井卓志, 星野秀土, 田口 学
第24回九州手の外科研究会, 2003, 2, 宮崎.
- 4) Biomechanical Comparison of Two Stabilization Techniques of the Atlantoaxial Joints
- Transarticular Screw Fixation vs Screw and Rod Fixation -
Hiroshi Kuroki, Vijay Goel, Setti Rengachary, Scott Holekamp
Ville Pitkanen, Nabil Ebraheim
49th Orthopaedic Research Society, 2003, 2, New Orleans.
- 5) 両上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の新体操選手の治療経験
岡田麻里, 樋口潤一, 河原勝博, 井上 篤
第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.
- 6) 円板状半月術後の関節症性変化について
上通一師, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 山本恵太郎
第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.
- 7) ラグビーでの重症外傷とその安全対策
中村嘉宏, 田島卓也, 柏木輝行, 矢野良英, 東原潤一郎
第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.
- 8) 第18回ラグビーアジア大会における日本選抜チームへの帯同経験
田島卓也
第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.

- 9) 2002FIFAワールドカップキャンプ地におけるメディカルサポート
樋口潤一
第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.
- 10) ラグビー競技における高度・重症障害事故と宮崎県救急医療体制の現状
中村嘉宏, 田島卓也, 柏木輝行, 矢野良英, 東原潤一郎
第21回宮崎救急医学会, 2003, 2, 西都.
- 11) 嚥下障害に対する経皮内視鏡的胃瘻造設術の有効性について
谷口江美, 田中 誠, 浪平辰州, 那須優一
第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.
- 12) 当院における大腿骨頸部骨折症例の在宅復帰率の検討
東 ルミ, 神瀬 誠, 浪平辰州, 坂田勝美, 那須優一, 濱田 剛
第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.
- 13) 人工股関節置換術前後の筋力評価
塩崎静香, 塩崎 猛, 柏木輝行, 矢野良英
第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.
- 14) AI-wiring systemを使用した膝蓋骨骨接合術後早期理学療法の小経験
那須優一, 濱田 剛, 浪平辰州, 坂田勝美
第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.
- 15) 当院における院内転倒の現状調査
竹邊八千代, 谷口江美, 浪平辰州, 坂田勝美, 濱田 剛
那須優一
第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.
- 16) 施設入所者における転倒危険性の予測-Timed Up & Go testを用いて
迫田勇一郎, 黒木場博幸, 小牧一麿, 濱田浩朗, 岡村直樹
栗山生代, 大瀧幸哉
第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.
- 17) GeodeのみられたRA膝に対するTKAの経験
小牧 亘, 本部浩一, 税所幸一郎
第25回九州リウマチ学会, 2003, 3, 那覇.

- 18) 関節リウマチに対するメトトレキサート療法の問題点
山下良三, 大倉俊之, 河原勝博, 野辺達郎, 篠原典夫, 木村千仍
第18回宮崎県リウマチ研究会/第11回宮崎リウマチのケア研究会,
2003, 3, 宮崎.
- 19) RAの臼底突出に対するReinforcement ringの使用経験
桐谷 力, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 内田秀穂
前田和徳, 黒木修司, 田島直也
第18回宮崎県リウマチ研究会/第11回宮崎リウマチのケア研究会,
2003, 3, 宮崎.
- 20) 腰椎固定による椎間板変性を伴う上位隣接椎間への影響—三次元有限要素法を用いて—
後藤啓輔, 田島直也, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 鳥取部光司
黒木浩史, 新井 隆
第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.
- 21) 胸椎解離術における前方法・後方法の生体力学的検討
久保紳一郎, V.K.Goel, 田島直也, 黒木浩史, 後藤啓輔
栗原典近
第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.
- 22) 環軸椎固定術に関する生力学的検討—Transarticular screw fixation法とScrew and rod fixation
法との比較—
黒木浩史, Goel Vijay, Rengachary Setti, Ebraheim Nabil
久保紳一郎, 田島直也
第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.
- 23) 腰椎椎間板摘出術が脊椎機能単位に及ぼす慢性的影響に関する生力学的研究
黒木浩史, Goel Vijay, Ebraheim Nabil, 久保紳一郎, 田島直也
第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.
- 24) 弾発指を合併した手根管症候群の検討
原田香苗, 中島英親, 寺本憲市郎, 長井卓志, 星野秀士
第46回日本手の外科学会学術集会, 2003, 4, 名古屋.
- 25) Effect of flexion-extension cyclic loads on the lumbar spinal segment with different discectomies
Hiroshi Kuroki, Vijay Goel, Scott Holekamp, Nabil Ebraheim
Shinichiro Kubo, Naoya Tajima
ISSLS 30th ANNUAL MEETING, 2003, 5, Vancouver.

- 26) コンピューター上で画像データの汎用計測やファイリング可能なソフトの使用経験
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 黒沢 治, 田島直也, 是松信俊
第76回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.
- 27) 大腿骨頭壊死に対するセメント充填補強術
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 黒沢 治, 田島直也
第76回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.
- 28) 股関節の手術的脱臼法の経験
帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治
第76回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.
- 29) 3本スパイクセメントレス人工股関節(JOHP)の臨床成績
忽那龍雄, 大久保康一, 谷口良康, 帖佐悦男, 前田謙而, 古市 格
第76回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.
- 30) MX-1人工股関節におけるUHMWPE磨耗の検討
黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 田島直也, 安田舜一
是松信俊
第76回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.
- 31) 膝関節滑膜細胞におけるゼラチナーゼの発現調節—ヘモグロビンの影響—
田島卓也, 吉田悦男, 大村さゆり, 杉本雅彦, 丸山真杉
第16回血液と血管を考える会, 2003, 6, 宮崎.
- 32) ジーントラップにより得られた脊索特異的に発現する新規遺伝子sickle tailの解析
仙波 圭, 王 鳳山, 李 正哲, 関本朝久, 鈴木 操, 阿部訓也
荒木正健, 荒木喜美, 山村研一
第36回日本発生生物学会, 2003, 6, 札幌.
- 33) 四肢に多発したSchwannomatosisの症例報告
黒木修司, 田島直也, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 黒沢 治
内田秀穂, 前田和徳, 桐谷 力
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 34) 鉤椎関節進入による頸椎前方除圧術
増田 寛, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔, 栗原典正
田島直也
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

- 35) RAの臼底突出に対するAcetabular reinforcement ring with hook使用例の成績
桐谷 力, 田島直也, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治
内田秀穂, 前田和徳, 黒木修司
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 36) 稀な環指ロッキングの一例
小牧 亘, 濱田浩朗, 佐藤隆三, 小牧一磨
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 37) 整形外科手術におけるACUTRAK screw(ACUMED)の使用経験 成績不良例の検討
山本恵太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明
田島直也
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 38) 股関節の手術的脱臼法について
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 前田和徳, 田島直也
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 39) 膝蓋腱断裂に人工靭帯を使用した治療経験
小菌敬洋, 田邊龍樹, 松元征徳, 森 治樹, 田爪陽一朗, 増田 寛
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 40) アキレス腱断裂に対する経皮的縫合術のMRIによる治療経過及び治療成績
川添浩史, 長鶴義隆, 松岡知己, 村上 弘
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 41) 脊椎手術後に発症した冠動脈狭窄の2例
後藤英一, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔, 田島直也
第105回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.
- 42) 脊髄損傷患者に対するアンケート調査による社会的不利の検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 黒木浩史, 後藤啓輔, 渡部正一
田島直也
第40回日本リハビリテーション医学会学集会, 2003, 6, 札幌.
- 43) 当科における大腿骨頸部骨折症例の在宅復帰率の検討
浪平辰州, 坂田勝美
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

- 44) 3本スパイクセメントレス人工股関節(JOHP)の経験
甲斐糸乃, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 濱田浩朗, 黒沢 治
前田和徳, 福嶋秀一郎, 小松奈美, 小島岳史, 三橋龍馬
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 45) 外傷性股関節脱臼に合併した大腿骨骨頭骨折の治療経験
安藤 徹, 神菌 豊, 益山松三, 帖佐悦男
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 46) 乳幼児の化膿性関節炎の治療経験
上通一師, 本部浩一, 税所幸一郎
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 47) 大腿骨頸部外側骨折の術後に大腿骨頭壊死を生じた2例
大宮博史, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 公文崇詞
山田正寿
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 48) ガンマネイル術後にラグスクリュー挿入部で外側皮質骨折を生じた1例
～遠位ロッキングスクリューについての検討～
塩月康弘, 河野 立
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 49) 深屈曲・正座を目標にした人工膝関節置換術
中村嘉宏, 柏木輝行, 田島卓也, 矢野良英
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 50) 糖尿病性筋梗塞(Diabetic muscle infarction)の1例
永吉洋次, 岩切清文
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 51) 頸椎椎弓根スクリューの安全性・有用性について
吉田尚紀, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一
増田 寛, 桐谷 力
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

- 52) 大腿骨遠位端骨巨細胞腫の治療経験
公文崇詞, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 大宮博史
山田正寿, 薬師寺俊剛, 高木克公
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 53) 当院において診断、治療に苦慮した膝関節周辺疾患の3例
村上 弘, 長鶴義隆, 松岡知己, 川添浩史
第46回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.
- 54) 腓骨疲労骨折に関する3D-FEMを用いた生体力学的検討
園田典生, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 山本恵太郎, 田島直也
第29回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2003, 7, 軽井沢.
- 55) 両上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の新体操選手の治療経験
岡田麻里, 樋口潤一, 井上 篤, 田島直也, 河原勝博
第29回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2003, 7, 軽井沢.
- 56) 当科におけるセメントレスAML型THA の5年以上の臨床成績
西里徳重, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 公文崇詞, 大宮博史
山田正寿
第12回MX人工股関節研究会, 2003, 7, 熊本.
- 57) 化学療法施行中の敗血症性ショックに対しエンドトキシン吸着療法を行い救命した一例
小松奈美, 福嶋秀一郎, 榎 英俊, 松岡博史, 白飯哲朗
濱川俊朗, 高崎真弓
第22回宮崎救急医学会, 2003, 8, 小林.
- 58) 当院における帯状疱疹後神経痛に対する神経ブロック療法
佐藤信博
第2回宮崎難治性疼痛研究会, 2003, 9, 宮崎.
- 59) 大腿骨頭壊死に対するセメント充填補強術
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 前田和徳, 濱田浩朗
第30回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.
- 60) 股関節症に対する白蓋形成術の成績
松岡知己, 長鶴義隆, 川野彰裕, 村上 弘
第30回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.

- 61) 年長児ペルテス病に対する大腿骨骨切り術とSalter骨盤骨切り術併用の検討
黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳
第30回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.
- 62) 急速破壊型股関節症の病因検討
前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 濱田浩朗
第30回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.
- 63) 3本スパイクセメントレス人工股関節(JOHP)の経験
甲斐糸乃, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 福元洋一, 濱田浩朗
黒沢 治, 前田和徳
第106回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.
- 64) 頰椎ペディクルスクリューの有用性
吉田尚紀, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一, 増田 寛
第106回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.
- 65) 胸腰椎破裂骨折に対する当科における治療経験(手術療法を中心として)
桐谷 力, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 大宮博史
山田正寿
第106回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.
- 66) 膝窩動脈瘤の1手術例
浪平辰州, 猪俣尚規, 勝嵩葉子
第106回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.
- 67) 当科におけるWatson法の短期成績
吉川教恵, 河野 立, 矢野浩明, 黒木龍二, 園田典生
山本恵太郎, 帖佐悦男
第106回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.
- 68) 当科における肘部管症候群に対する手術治療
村上 弘, 長鶴義隆, 松岡知己, 川野彰裕
第106回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.

69) 腰椎すべり症に対する腰椎後側方固定術の長期遠隔成績－Pedicule screw systemの有用性について－

黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 吉田尚紀, 後藤英一, 増田 寛
後藤啓輔, 田島直也

第60回西日本脊椎研究会, 2003, 11, 福岡.

70) ラグビーにおける競技場安全評価について

田島卓也, 柏木輝行, 中村嘉宏, 矢野良英, 美原 恒
東原潤一郎, 成田陽二郎

第14回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2003, 11, 千葉.

71) 男子新体操選手のメディカルチェック

樋口潤一, 田島直也, 井上 篤, 小菌敬洋

第14回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2003, 11, 千葉.

72) 側弯症学校検診におけるモアレ判定法の実際

黒木浩史, 久保紳一郎, 吉田尚紀, 後藤英一, 後藤啓輔
田島直也

第37回日本側弯症学会, 2003, 11, 千葉.

73) 可変型遺伝子トラップによるトラップラインの樹立と解析

谷脇琢也, 関本朝久, 中村 浩, 副島由美, 中務胞, 牟田真由美
作村由美, 春名享子, 今泉隆志, 尾池雄一, 中瀧直己, 荒木正健
荒木喜美, 山村研一

第26回日本分子生物学会, 2003, 12, 神戸.

74) 外骨腫(骨軟骨腫)によるスポーツ障害に対する手術経験

小菌敬洋, 田島直也, 樋口潤一, 後藤啓輔, 井上 篤

第16回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2003, 12, 福岡.

75) MIS(Minimally Invasive Surgery)による人工股関節置換術

柏木輝行, 田島卓也, 矢野良英

第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

76) HATCPコーティング人工骨頭の術後7年以上のX線学的検討

福島克彦, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 黒沢 治
前田和徳, 崎濱智美, 帖佐悦男

第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

- 77) 脳性麻痺亜脱臼股に対する術前動態X線検査評価
三橋龍馬, 柳園賜一郎, 山口和正
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 78) 当科における大腿骨頸部骨折死亡退院例の検討
猪俣尚規, 浪平辰州, 勝寫葉子
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 79) 胸腰椎破裂骨折に対する治療経験
桐谷 力, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 大宮博史
山田正寿
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 80) 脊柱側弯症に対する後方矯正固定術—CD法とISOLA法との比較—
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 吉田尚紀, 後藤英一, 増田 寛
吉川教恵, 小島岳史, 後藤啓輔, 田島直也
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 81) 脂肪腫及びガングリオンにより後骨間神経麻痺を起こした2例
大宮博史, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 山田正寿
桐谷 力
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 82) 前腕再接着後の低位正中・尺骨神経麻痺に対して再建を行った一例
大安剛裕, 吉本 浩, 横内哲博, 小藺敬洋, 森 治樹, 松元征徳
田邊龍樹
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 83) 第4、5手根中手関節背側脱臼を伴った有鉤骨体部骨折の1例
大倉俊之, 塩月康弘, 坂田勝美
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.
- 84) 高Ca血症を合併したMaffucci症候群の1例
税所幸一郎, 本部浩一, 上通一師, 富安真二郎, 佐伯隆人
沖野哲也, 小坂裕之
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

85) 当科における陳旧性足関節外側靭帯損傷に対する手術経験

川野彰裕, 長鶴義隆, 松岡知己, 村上 弘
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

86) 外傷性肩不安定症に対する鏡視下Bankart修復術の治療経験

井上 篤, 田島直也, 樋口潤一, 後藤啓輔, 小園敬洋
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

87) 距骨滑車骨軟骨損傷に対しMosaicplastyによる骨軟骨移植術を施行した一例

山本恵太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 河野 立
船元太郎, 吉川大輔
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

88) 初診時診断に超音波が有用であった、まれな上腕筋肉離れの一例

魏 国雄, 大江幸政
第47回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

◆講 演

1) 乳児の股関節脱臼予防について

岡本義久
宮崎市母子訪問指導員研修講話, 2003, 1, 宮崎.

2) 骨粗鬆症の治療、整形外科開業医の立場から

岡本義久
タケダ会, 2003, 1, 宮崎.

3) 乳児の股関節脱臼予防について

岡本義久
宮崎市郡医師会小児科医会, 2003, 2, 宮崎.

4) Spinal Instruments－可動性を有するinstrumentsを目指して－

田島直也
第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.

5) 腰椎固定術－特に後側方固定術を中心に－

田島直也
第76回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.

6) 整形外科—最近の動向と展望—

田島直也

第78回長崎整形外科懇話会, 2003, 6, 長崎.

過去の同門会誌に未掲載の分です（文頭の番号はその年度に継続してつけています）。

2001年分

◆学会報告

101) 中高齢者の半月板切除術の成績

石田康行, 山口和博, 麻生英一郎, 野崎義宏
第27回日本関節鏡学会, 2001, 9, 札幌.

2002年分

◆原 著

26) 中高齢者の鏡視下半月板切除術の成績

石田康行, 山口和博, 麻生英一郎, 野崎義宏
関節鏡, 27(1): 15-18, 2002.

◆学会報告

97) 当科における鏡視下前十字靭帯再建術の成績

石田康行, 山口和博, 小西宏昭, 原真一郎, 馬場秀夫
尾崎 誠, 野崎義宏, 楊井知紀, 日高信通
長崎整形外科懇話会, 2002, 6, 長崎.

98) 内側半月板変性断裂に対する鏡視下半月板形成的部分切除術の成績

石田康行, 山口和博, 麻生英一郎
第28回日本関節鏡学会, 2002, 12, 大阪.

編集後記

昨年は折しも、教室開講 30 周年という節目の年に帖佐悦男先生が第 3 代教授に就任され、同門、教室にとりまして本当に記念すべき年でした。今回の同門会誌はその 2 つの大きなテーマを柱に、歴代教授、同門会役員、歴代医局長の先生方には在局当時の思い出などを語っていただき、学内の臨床グループのチーフや関連病院の医長の先生方にも、1 つの区切りとして、近況報告をしていただきました。ご協力いただきました先生方にはこの場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

また、教室の山本先生には「はみだしコラム 同門会のタネ」と題しまして、同門会員を様々な角度からデータ化していただきました。こうして並べてみますとまさに「へえ～」の連続で、大変興味深く拝読させていただきました。山本先生、ご苦労様でした。

恒例のテニス、ゴルフ大会のレポートや野球大会の報告も実況さながらに充実しております。野球はこの報告の次年度（本年）、ついに念願の全国制覇を果たしました。田島前教授が鍛え上げた選手たちの活躍など、次号に期待いたします。

新研修制度が始まり、本年度まで新卒の入局はありませんでしたが、正会員として弓削孝雄先生、弓削七重先生、賛助会員として高見先生、大崎先生、河合先生、小櫻先生に御入会いただき、今回自己紹介として投稿いただきました（弓削七重先生は時期が折り合いませんでしたので次回の会誌でお願いしたいと存じます）。

平成 17 年 6 月吉日

黒木龍二

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 平成17年6月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 黒 木 龍 二

印 刷 所 身体障害者通所授産施設やじろべえ